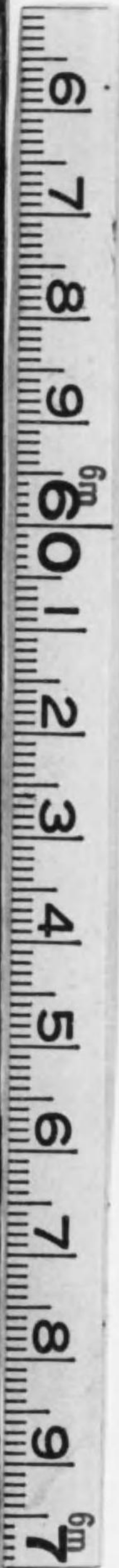


特 244

969



始



特 244

969

十一
卷
第
一
冊

果樹園藝必携

徐文海編著 上海科學出版社

特244
969

はしがき

果樹園藝の經營は自然的地勢、土質や、經濟的環境を十分に考慮し、適地適作を根底として、樹種的選擇や栽培の規模程度を定め、之を農業組織の一部として総合的、有機的に組合せ、最善の力を盡すことが肝要である。凡そ事を起すに當りては、最後の理想、目標を打立て之を達成せざれば止まざるの覺悟と強き信念が大切であり、その信念を生かし貫徹せしむるのほ、倦なき研究と不斷の努力であり、以て眞に勤勞を樂むの境地に入らなくてはならぬ。

此の渺たる小冊子もその研究の手ほどきとなり、其信念を培ふを得ば價値亦渺小ならざるべきを信ずる。



果樹園開設經營上ノ一般指針

一、果樹園藝ノ將來

最近ニ於ケル果樹ノ栽培ハ經濟更正計劃ノ樹立或ハ開墾助成等ニヨリ著シク其ノ栽培面積ヲ増加シツ、アリ從ツテ將來果樹園ヲ開墾セムトスルモノハ充分ニ其ノ將來性ヲ明分ニシ慎重ナル態度ヲ以テ之ガ經營ニ當ルベキデアル、將來ニ於ケル果樹園藝ノ進路ハ次ノ如ク考ヘラレル。

△生産方面

生産方面ニ就テハ栽培本數ノ増加ニヨリ或ハ樹齡ニ依ル栽培法ノ改善ニヨツテ生産品ノ増加トナリ從ツテ市場集荷ハ激増シ茲ニ品質上ノ競争ハ益々激化シ、價格ハ或ル程度下落スルモノデアアルコトヲ覺悟セネバナラヌ。

△消費方面

消費方面ニ就テハ、人口ノ増加ニヨリ、生活ノ向上嗜好ノ向上等ニヨリ一人當リノ消費量ノ増加ガアリ加フルニ外國ニ輸出ノ可能ノモノハ其ノ増大スルコトニヨリ、即チ消費モ相當ニ増加スルモ、人文ノ向上ト同時ニ品質

果樹園開設經營上ノ一般指針

目次

一、果樹園藝ノ將來

二、果樹園開設經營上ノ一般指針

三、果樹園開設經營上ノ一般指針

四、果樹園開設經營上ノ一般指針

五、果樹園開設經營上ノ一般指針

六、果樹園開設經營上ノ一般指針

七、果樹園開設經營上ノ一般指針

八、果樹園開設經營上ノ一般指針

九、果樹園開設經營上ノ一般指針

十、果樹園開設經營上ノ一般指針

果樹園開設經營上ノ一般指針

一、果樹園藝ノ將來

最近ニ於ケル果樹ノ栽培ハ經濟更正計劃ノ樹立或ハ開墾助成等ニヨリ著シク其ノ栽培面積ヲ増加シツ、アリ從ツテ將來果樹園ヲ開墾セムトスルモノハ充分ニ其ノ將來性ヲ明分ニシ慎重ナル態度ヲ以テ之ガ經營ニ當ルベキデアル、將來ニ於ケル果樹園藝ノ進路ハ次ノ如ク考ヘラレル。

△生産方面

生産方面ニ就テハ栽培本數ノ増加ニヨリ或ハ樹齡ニ依ル栽培法ノ改善ニヨツテ生産品ノ増加トナリ從ツテ市場集荷ハ激増シ茲ニ品質上ノ競争ハ益々激化シ、價格ハ或ル程度下落スルモノデアアルコトヲ覺悟セネバナラヌ。

△消費方面

消費方面ニ就テハ、人口ノ増加ニヨリ、生活ノ向上嗜好ノ向上等ニヨリ一人當リノ消費量ノ増加ガアリ加フルニ外國ニ輸出ノ可能ノモノハ其ノ増大スルコトニヨリ、即チ消費モ相當ニ増加スルモ、人文ノ向上ト同時ニ品質

本位ノ需要ガ益々大ナルモノト考ヘラレ、又果實ガ一種ノ贅澤品ト考ヘラレシ時代ヨリ生活ノ實用品トシテ需要サレルコトニナレバ必ズ其ノ價格ハ或ル程度廉價ニ供給スル必要ガアルコトヲ考ヘニ入レネバナラス。

△ 果樹栽培ノ目標

斯クノ如ク生産消費ノ兩方面ヨリ考察スレバ將來果樹栽培ノ目標トスベキハ、先ヅ第一ニ優良品ノ生産デナケレバナラス。第二ニ生産費ノ遞減ニヨツテ廉價ニ供給シ得ル様又市價ガ下落シテモ差支チイ様ニ經營シナケレバナラス。第三ニ相當ノ數量ヲ纏メテ販賣シ得ル様ナ多量ノ生産デナケレバナラス。

△ 經營ノ方法

從ツテ經營ハ天然要素ノ完備セル適地ヲ選擇スルコトガ根本デアリ之ニ人力ノ最善ヲ併セ盡ス經營デナケレバナラス。而テ多量生産及ソノ處理ニ便益ナル方法トシテ集團的ノ栽培ガ必要デアリ又生産品ノ統一ヲ計リ市場價格ヲ維持スルニハ共同的ニ生産ノ調整並ニ出荷販賣ヲ行フ必要ガアル。尙又生産費ノ遞減ニハ必ズ自家ノ勤勞ヲ基礎トシ副業的經營即チ一家ノ農業經營改善ヲ目標トシテノ經營デナケレバナラス。

二、果樹栽培ノ適地

△ 位 置

- 一、排水可良ナルコト
- 二、灌溉ニ便ナルコト
- 三、陽光ノ透射充分ナルコト但栗ハ西日ノ直射ヲ忌ム
- 四、風害少ナキ處タルコト（冬季西北風、或ハ夏季ノ暴風等ノ少ナキ處）
- 五、出入ニ便ナルコト

△ 風 土

柑橘—冬季ノ最低氣温ハ零下五度以下ニ下ラナイ處デ可成的溫暖地ヲ良シトスル、土質ハ礫質埴土壤土礫質又ハ砂質ノ壤土ニシテ小礫ヲ混ズルモノヲ最適トスル（安山岩玄武岩又ハ花崗岩分解土壤古成層等）

ネーブルハ耕土深ク肥沃ナル壤土又ハ砂質壤土ヲ良シトス

柿—氣候ヲ撰ブコトハ少ナイガ温暖ナル處デ優品ヲ産スル土質ハ平坦地又ハ山麓地ノ、相當保水ガアル土壤（粘質壤土、礫質粘土等）最モ良イガ山間地ニテモ保水力アル肥沃ナル處ハ良イ、山頂等ノ乾燥甚ダシキ處ハ避ケタガ安全デアル。

和梨	棚仕立	一二尺×一二尺	一二尺×一五尺
温州	自然形	一二尺×一二尺	一五尺×一五尺
ネーブル	全	一五尺×一五尺	一五尺×一八尺
柿	全	一五尺×一五尺	一八尺×一八尺

三、植穴及植付肥料

栽植一ヶ月前ニ直徑三尺深サ二尺五寸ノ植穴ヲ掘リ之ニ完熟堆肥二貫大豆粕一五〇匁ヲ施シ表土ヲ入レテ攪拌シテオク。堆肥ハ必ず完熟セルモノデアルコトガ必要デ未熟ナモノハ植付後乾燥ノタメ活着不良トナル。又酸性強キ處ニテハ石灰一株ニ付一五〇匁ヲ施用スルコトガ必要デアル。但シ栗ハ根瘤菌ノ生育ヲ害シ樹ノ發育不良トナル故石灰ハ施サナイガ良イ。

四、栽 植 時 期

秋季落葉後ヨリ春季發芽迄即休眠中ニ行ナフベキデ只晚秋季及早春季ノ何ガヨイカハ果樹ノ種類ニヨツテ異ナル。即梨、桃、梅、葡萄等ノ如ク早ク發根スルモノ（二月上中旬頃發根ス）ハ晚秋植エ（十一月―十二月）ヲ可

トシ、發根遅キモノ例ヘバ柿（四月下旬發根）柑橘（五月上中旬發根）等ハ春植エ（二月―三月）ヲ可トス。大体ニ於テハ嚴寒ノ候（十二月―二月上）ヲ除キテ栽植スルヲ普通トスルガ晚秋植エノモノハ栽植ニ當リテ其ノ取扱ヲ町重ニシ防寒及防乾ヲ充分ナラシメナイト其ノ成績ハ面白クナイ。

五、栽植方法並栽植上ノ注意事項

苗木ハ取扱ヒヲ町嚙ニシ殊ニ根部ヲ日光及風ニ當ナイ様注意シ、根部ノ折損部分ハ切返シ、枝幹ハ夫々整枝法ニヨリ剪定ス。穴ノ土ハ良ク攪拌細破シテ根部ヲ四方ニ擴ゲ細土ニテ覆土シ充分灌水敷藥ヲナス。植込ノ深サハ苗木時代ノ深サヲ標準トシ接木部位ヲ地上部ニ僅カ出ス程度トスル。栽植ニ當リテ特ニ注意スベキ點左ノ如シ。

- 1、根部ハ極メテ乾燥枯死シ易キヲ以テ苗木到着後直チニ栽植スルカ又ハ直チニ假植スルコト（殊ニ柑橘、柿、栗ハ甚ダシ）
- 2、灌水、防寒嚴重ニ行ナヒ、新根發生ヲ容易ナラシムルコト
- 3、植付ト同時ニ支柱ヲ立テ倒伏動搖ヲ防グコト

六、植付當時ノ剪定

栽植スベキ苗木ハ夫々其ノ整枝ノ方法ニヨツテ適宜ニ剪定スベキデ到着シタ苗木ノ儘栽植スルコトハ將來整枝

ノ完全ヲ期スルタメ極メテ不自由ナ事ガ多イ。

種	類	整枝法	植付當時ノ主幹剪定ノ長さ	備	考
和	梨	改良棚仕立	三尺五寸	苗木ガ貧弱デ所定ノ長さニ達セナイ時	
柑橋(温州)	ネーブル	自然形	一尺五寸	或ハ剪定部位ニ優良ナ芽ガナイ時ニハ一度適當ナ部位デ切返シ優良ナル主幹	
柿		全	一尺	ノ生育ヲ計ル	

七、整枝ノ概要

梨——植付ノ時三尺五寸ニ切り之レヨリ三—四本ノ枝ヲ伸長サセ強枝ハ誘引シテ横倒シトシ弱枝ヲ立テ、平等ニ生長セシメ、翌冬各ハ各一尺—一尺五寸ニテ剪定シ之ヨリ各枝ヲ二本—三本宛伸長セシメ之ノ各枝ハ平等ニ生育ヲ計リ翌冬(三年目)各枝ヲ一尺五寸—二尺ニ剪定シ各枝ヨリ一本—二本宛ヲ伸長セシメテ一株當リ十二—十五本位ノ主枝ヲ四方平等ニ廣ゲ之ノ主枝ハ毎年一尺五寸—二尺ニ剪定シ樹形ヲ完成スル

柑橋——植付當時一尺五寸ニ剪定シ之ノ主幹ノ上位ヨリ主枝トナル三—四ノ枝ヲ伸長セシメ下位ヨリ發生スル芽ハ其ノ初期ニ摘除シ春秋ノ各季ヲ通ジテ其生長ヲ計リ翌春之ノ枝ヲ一尺五寸—二尺ニテ剪定シ之ノ主枝ヨリ

二—三本ノ枝ヲ伸長セシメ後毎年之ヲ繰返シ半圓形ノ樹形ヲ完成スル

柿——植付當時二尺ニテ剪定セルモノハ四本ノ主枝ヲ伸長セシメル。之ノ場合一芽ヨリ二本モ枝ノ出ルコトガアルガ必ズ一芽一本トシ之レ等ノ枝ノ生育ヲ平等ナラシムル様努メル

柿ハ植付一年目ニハ枝ノ生長甚ダ不良デアルカラ、各主枝ハ其ノ長サガ二尺以上ニ伸長セナイモノハ第二年目ノ初春ニハ適當ノ處デ切返シ之ノ枝カラ一枝ヲ伸長セシメテ四本ノ主枝ノ充分ナル伸長ヲ計ル。之ノ四本ノ主枝ハ翌冬各二尺位ニテ剪定シ之ヨリ二枝ヲ伸長セシメ翌春二尺デ剪定シ各二枝ヲ伸長シテ次第ニ樹形ヲ半圓形ナラシメ樹形ヲ完成ス。

五、本縣農事試驗場ニ於ケル果樹苗木養成配布

一、養成配布計劃

本縣ニ於ケル果樹ノ栽培ハ近時益々盛ントナリ年々一〇〇—一五〇町歩ヲ増加シ他府縣ヨリ移入セラル、果樹苗ハ其ノ數八万本ニ及ビ金額ニ於テ一万二千圓ノ多額ニ及ンデ居ル。然ルニ其ノ移入セラレツ、アル苗ハ稍モスルト品種系統等ガ甚ダ雜駁デ且ツ經濟的ニモ損ナル故本縣果樹園藝發展上ノ一大欠點デアル。試驗場ニ於テハ昭

和十七年度ヨリ果樹苗木養成ヲ始メ、左記計劃ニ依リ昭和十一年度ヨリ之ヲ有償配布セントスルモノデアアル。

△ 苗木配布計劃

種類	品種系統	昭和十年度養成		昭和十一年度以降	
		配布豫定數	配布年度	配布豫定數	配布
柑	橋 温州 山田系	一五、〇〇〇本	昭和十二年春	二〇、〇〇〇本	毎年
柿	富野 横野	一、〇〇〇	昭和十一年秋	三、〇〇〇	全
梨	八雲 廿世紀 吉	一、〇〇〇	昭和十一年秋	一、〇〇〇	全

△ 苗木配布要項

配布ノ方法ハ豫メ當場ヨリ指示セル方法ニ依ル、即チ縣下各市町村農會長又ハ市町村長ヨリ郡市農會長市長ヲ經テ、試驗場長宛配布申請アツタモノヲ詮考ノ上適當ト認メタルモノニ對シテ行ナスコトニナツテ居ル

二、配布品種ノ特性

(イ) 柑 橋

品種名	樹勢	果實	果肉	備考
伊木力温州 (山田系)	強	形狀大小外皮色玉揃緊リ	質極上	糖分率高ク收穫初期ヨリ良質加フルニ貯藏後歩減ナク風味良好
	圓扁大	濃橙色	極上	
		良極上	多	
		光緊	晚稍々	
		黃橙		
		無		

(ロ) 柿

品種名	甘澁ノ別	樹勢	果實	果肉	備考
富野	澁	強	縱面横斷面大小	肉質稠斑	風味
横野	澁	強	稍々圓	脆緻密	極上
富野	澁	強	圓	脆緻密	極上
富有	甘	強	扁圓	脆緻密	極上
		強	圓	脆緻密	極上
		強	大	脆緻密	極上
		強	七〇〇匁	脆緻密	極上
		強	六〇〇匁	脆緻密	極上
		強	帶紅黃	脆緻密	極上
		強	帶紅黃	脆緻密	極上
		強	上全	脆緻密	極上
		強	脆緻密	脆緻密	極上
		強	無	脆緻密	極上
		強	良品	脆緻密	極上
		強	全	脆緻密	極上
		強	中晚旬	脆緻密	極上
		強	月上晚旬	脆緻密	極上
		強	多	脆緻密	極上

(ハ) 梨

品種名	樹勢	果實	果肉	備考
八雲	強	圓	中ノ小	五四〇匁
				淡黃綠
				滑澤
				柔軟密
				極上
				早生
				八月上旬
				多

晚三吉	廿世紀
強	中
尖圓	圓
大	中
百九〇 匁	六五〇 匁
茶褐	滑黃 澤綠
柔軟稍々密	柔軟緻密
上	極上
晚生十月中下旬	中生 九月上旬
多	多

一一一

梨栽培月別行事表

月	旬	作	業	方	法	備	考
一	上	計	劃	樹	立	<p>○本月ヨリ始マル一ケ年ノ作業ハ總テ年頭ニ於テ計劃準備ヲ定メテ遺漏ナキヲ期スベキデアル</p> <p>○經營全体ニ就キ充分ノ考慮ヲメグラシク往ヨリ以上ノ成績ヲ擧グルコトヲ期ス</p> <p>○紙袋張リハ勿論器具機械ノ購入修繕其ノ他必需品ノ購入調製又ハ其ノ準備ヲナス</p> <p>○果實袋ハ新聞紙ニテ調製スルヲ普通トスルモ「ハトロ」紙五〇―七〇斤ノモノハ色澤外觀ヲ良好ニス特ニ青肌梨ノ早採リニハ五〇斤内外ノ「ハトロ」紙ガ良イ</p> <p>○袋ノ塗料ハ荏油ニ石油二割ヲ混合セルモノヲ普通トス</p> <p>○黒斑病豫防ニハ明礬八一〇匁石鹼同量水一升ノ明礬石鹼液ヲ塗布ス</p>	<p>○收益ノ多少ハ技術ノ巧拙ヨリモ經營法ノ如何ニ因ルコトガ大デアルカラ勞力ノ分配ニ肥料ノ用法、販賣ノ方法等ニ付合理的ニ經營の方策ヲ考ヘル</p>

一三三

		月	
上	下	中	中
整枝剪定	貯藏果ノ手入	耕	中
<p>○一〇度以内ノ傾斜地又ハ階段畑ニテハ改良棚仕立トスルヲ良トス</p>	<p>○果ノ点檢ヲ行ヒ腐敗ノ兆アルモノハ速ニ除去スルト共ニ温度ノ變化ニ注意ス</p>	<p>○園ノ全面ヲ耕起ス 根元ハ淺ク樹冠ヲ離レルニ從ヒ細根ヲ切ルヲ程度トシ表土ヲ埋メ中心土ヲ曝露スル様心懸ケルコト</p>	<p>○石灰ヲ施用スル場合ハ段當二〇—三〇貫ヲ全面ニ撒布シタル後中耕ス ○落葉、枯枝、紙袋等ハ埋沒セズ之ヲ集メテ焼却スベシ</p>
<p>○樹液ノ流動ヲ開始セザル休眠中ニ定植ス</p>	<p>○栽植距離 二間×二間 段當七十五本植 二間×二間半 段當六十本植</p>	<p>○豫メ待肥ヲセザルモノハ完熟堆肥ヲ主トシ濃厚肥料ヲ多量ニ混ズルハ不可ナリ</p>	<p>○直根ヲ剪除シ側根細根ヲ充分擴ゲテ植付ケルコト</p>
<p>○苗ノ長サ五尺以上ニ伸ビ充實セルモノハ二、五—三、五尺ニテ剪定シ弱小苗ハ地上五寸—一尺ニテ剪リ再度母幹ノ養成ニ努ム</p>	<p>○傾斜地ニテハ下方ニ強キ根ヲ向ハシムベシ</p>	<p>○氣温ノ最低イ頃デアアルカラ外氣ノ浸入ヲ防ギ室温ノ激變ヲ防グ但シ一週ニ一度ハ一時間程開放シ新鮮ナル空氣ノ交代ヲ計ル</p>	<p>○母幹ヲ充分肥大充實セシムルコトガ將來ノタメ有利ナル故主枝ノ形成ヲ急イデハナラヌ</p>
<p>○棚下二—二、五尺ニテ主枝ヲ四本分岐ス棚下各主枝ハ支枝ヲ以テ四五度ニ開キ三年目ヨリ棚上ニ誘引結付ス</p>	<p>○主枝ハ必ズ葉芽ニテ止メ棚下ハ外芽棚上ニテハ側芽ニテ剪定ス</p>	<p>○各主枝ノ配置及勢力ハ均等ニスルタメ枝ヲ剪去ス</p>	<p>○花芽ノ着生多キ部位發育枝徒長枝ハ基部ヨリ除去ス</p>
<p>○支柱又ハ棚ノ修理補強増架ヲ行ヒ剪定後之レヲ配置良ク結付ス</p>	<p>○強勢ノ徒長枝ヲ短剪スル場合ハ基部折傷ヲ施ス</p>	<p>○發育枝、徒長枝ヲ果枝ニ變更利用セントズルニハ必ズ夏期剪定ヲ併施スルヲ要ス</p>	<p>○強キ發育枝及徒長枝ノ發生多キ部位ニ結果スレバ優良ナル果實トナル故發育枝ノ利用ハ梨果生産上必要デアアル</p>
<p>○一年生發育枝ノ剪定 主枝、亞主枝ノ表面ヨリ直上枝ハ基部ヨリ剪去側芽ノ發育セルモノハ枝ノ強弱ニ應ジ四—六芽ニテ剪定ス</p>	<p>○強キ發育枝及徒長枝ノ發生多キ部位ニ結果スレバ優良ナル果實トナル故發育枝ノ利用ハ梨果生産上必要デアアル</p>	<p>○和梨ノ明月及洋梨支那梨ノ發育枝ハ其ノ儘カ又ハ極ク弱剪シテ捻挫屈曲シ花芽ヲ着生セシメ一度結果セバ之レヲ基部ヨリ除去シ他ノ同様ニ養成セル果枝ト交代反覆ス</p>	<p>○二年生發育枝ノ剪定 前項ニ依リ昨年四—六芽ニテ剪定セル一般の處理法</p>
<p>○全部發育枝トナリ果芽着生セザル時ハ最下部ノ枝ヲ四—五芽ニテ短剪ス</p>	<p>○一〇度以上ノ傾斜地ノマ、ニテハ改良棚仕立ハ困難デアアルガ盃狀仕立ハ品質劣リ收量少ク盛果樹齡短カク全般的ニハ不利ナラヌ</p>	<p>○一〇度以上ノ傾斜地ノマ、ニテハ改良棚仕立ハ困難デアアルガ盃狀仕立ハ品質劣リ收量少ク盛果樹齡短カク全般的ニハ不利ナラヌ</p>	<p>○二年生發育枝ノ剪定 前項ニ依リ昨年四—六芽ニテ剪定セル一般の處理法</p>
<p>○花芽ノ着生多キ部位發育枝徒長枝ハ基部ヨリ除去ス</p>	<p>○強勢ノ徒長枝ヲ短剪スル場合ハ基部折傷ヲ施ス</p>	<p>○發育枝、徒長枝ヲ果枝ニ變更利用セントズルニハ必ズ夏期剪定ヲ併施スルヲ要ス</p>	<p>○強キ發育枝及徒長枝ノ發生多キ部位ニ結果スレバ優良ナル果實トナル故發育枝ノ利用ハ梨果生産上必要デアアル</p>

○棚下二—二、五尺ニテ主枝ヲ四本分岐ス棚下各主枝ハ支枝ヲ以テ四五度ニ開キ三年目ヨリ棚上ニ誘引結付ス

○主枝ハ必ズ葉芽ニテ止メ棚下ハ外芽棚上ニテハ側芽ニテ剪定ス

○花芽ノ着生多キ部位發育枝徒長枝ハ基部ヨリ除去ス

○強勢ノ徒長枝ヲ短剪スル場合ハ基部折傷ヲ施ス

○發育枝、徒長枝ヲ果枝ニ變更利用セントズルニハ必ズ夏期剪定ヲ併施スルヲ要ス

○強キ發育枝及徒長枝ノ發生多キ部位ニ結果スレバ優良ナル果實トナル故發育枝ノ利用ハ梨果生産上必要デアアル

○和梨ノ明月及洋梨支那梨ノ發育枝ハ其ノ儘カ又ハ極ク弱剪シテ捻挫屈曲シ花芽ヲ着生セシメ一度結果セバ之レヲ基部ヨリ除去シ他ノ同様ニ養成セル果枝ト交代反覆ス

○二年生發育枝ノ剪定
前項ニ依リ昨年四—六芽ニテ剪定セル一般の處理法

○全部發育枝トナリ果芽着生セザル時ハ最下部ノ枝ヲ四—五芽ニテ短剪ス

○一〇度以上ノ傾斜地ノマ、ニテハ改良棚仕立ハ困難デアアルガ盃狀仕立ハ品質劣リ收量少ク盛果樹齡短カク全般的ニハ不利ナラヌ

○花芽ノ着生多キ部位發育枝徒長枝ハ基部ヨリ除去ス

○強勢ノ徒長枝ヲ短剪スル場合ハ基部折傷ヲ施ス

○發育枝、徒長枝ヲ果枝ニ變更利用セントズルニハ必ズ夏期剪定ヲ併施スルヲ要ス

○強キ發育枝及徒長枝ノ發生多キ部位ニ結果スレバ優良ナル果實トナル故發育枝ノ利用ハ梨果生産上必要デアアル

○和梨ノ明月及洋梨支那梨ノ發育枝ハ其ノ儘カ又ハ極ク弱剪シテ捻挫屈曲シ花芽ヲ着生セシメ一度結果セバ之レヲ基部ヨリ除去シ他ノ同様ニ養成セル果枝ト交代反覆ス

- 花芽ノ數ハ一尺平方ニ二―三個ヲ殘セバ充分デアアル
- 花芽ハ成可ク主枝ニ近ク着生セシムルヲ原則トス
- 老成果枝ハ常ニ新成果枝ト交代セシムルコトヲ心懸クコト
- 昨年結果セル花痕肥大部ハ叮嚀ニ剪除スルコト
- 主枝更新ハ徒長枝ヲ適度ニ毎年剪定及折曲込ヲ行ヒ舊主枝ハ次第二切戻シヲ行ヒ三年目ニ基部ヨリ剪除ス
- 主枝ノ更新ヲ行フ時ハ同様ニ根ヲ行ヒ地下部ノ更新モ必要デアアル
- 結果枝ノ剪定法一般
 - 1、三―四寸以上ノ長、中、果枝ハ下位一
 - 2、二ノ花芽ヲ殘シテ剪定ス
 - 3、新生短果芽ハ殘置スルヲ普通トス
 - 4、三芽迄ニ止ムルコト
 - 5、主枝ノ下面及表面直角ニ着生セル結果枝ハ除去ス
- 主枝ノ更新
 - 盛果期ヲ過ギタル樹ハ主枝ハ基部ヨリ生ゼル徒長枝ヲ以テ更新ス一ケ年三―四本宛三ヶ年計劃シテ實施スルヲ有利トス
- 二枝以上花芽ノ着生セル場合ハ主枝ニ近キ良好ナル一―三個ノ花芽ヲ殘シ他ハ剪去ス
- 花芽着生セズ中間芽ヲ生ゼザルモノアラハ其ノ上位二―三芽ヲ殘シテ剪定シ他ハ除去ス
- 全部中間芽ヲ生ゼバ下位ノ一―二個ヲ前項ニ依リ處理ス
- 結果枝ノ剪定法一般
 - 1、三―四寸以上ノ長、中、果枝ハ下位一
 - 2、二ノ花芽ヲ殘シテ剪定ス
 - 3、新生短果芽ハ殘置スルヲ普通トス
 - 4、三芽迄ニ止ムルコト
 - 5、主枝ノ下面及表面直角ニ着生セル結果枝ハ除去ス

下 施 肥	中 棚修理及ビ誘 引結付 病蟲驅除
<p>○堆肥ヲ主トセル基肥ヲ施ス</p> <p>1、早生種ハ全量又ハ遅効肥料全部ト其 ノ他ノ五―七割</p> <p>2、中晩生種ハ遅効性ノ全量速効性ノ半 量</p>	<p>○剪定ノ際充實セル發育枝ヲ集メテ接穂ト シ適當ニ束ネ貯藏ス</p> <p>○園及樹枝ノ清潔ハ藥劑撒布ニ勝ル効果ヲ 有スルヲ以テ全面隅ナク勵行ス</p> <p>○越冬中ノ病菌驅除及害蟲驅除ニ石灰硫黃 合劑ボーム一四―五度液撒布</p>
<p>○厩堆肥ノ施用ハ梨栽培ノ秘訣デアアル段當 於テ特ニ其ノ効大ナリ</p> <p>○堆厩肥、魚肥、搾粕類ハ元肥トシ一般化學 肥料ノ大部分ハ追肥トスルヲ良シトス</p>	<p>○病蟲害ノ潜伏個所デアアル古キ支柱竹繩等 ノ修理取替ハ重要ナル作業デアアル</p> <p>○誘引結付ハ夏季ヨリ心懸ケテ行ヒ冬季ニ 一時ニ強度ノ曲込ミハ危険デアアル</p> <p>○樹体ハ「ブラツシ」繩藥等ニテ擦リ古皮ヲ 剝ギ取り果枝群木ノ又ハ特ニ可嚙ニ粗皮 ヲ擦リ取ル</p> <p>○地面ニ散亂スル落葉、枝條、古繩其ノ他ハ 一切燒棄ス</p> <p>○濃厚石灰硫黃合劑(三二―三三度)ヲ七― 一〇倍ノ水ニテ稀釋スレバ上記ノ濃度ト ナル</p> <p>○接穂ハ濕地ヲ避ケ陰冷ノ地中二―三尺ノ 深サニ穴ヲ掘リ埋ム</p>

三		月																												
中																														
接木挿木																														
貯蔵果ノ手入																														
○梨ノ接木挿木ノ適期デア ○梨ハ揚接ニテ充分活着ス ○砧木用ノ挿穂ハ充實セル枝ノ成ル可ク基部ヲ用ヒ長サ一尺内外トシ之ヲ全長ノ三分ノ二ヲ挿入ス ○氣温ハ次第ニ上昇シ貯蔵果ノ腐敗モ多クナル故被害果ハ速ニ除去ス	<p>3、幼木ハ輪肥成木ハ全園施肥トス</p> <p>○施肥量標準</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">三要素</th> <th colspan="2">加里</th> </tr> <tr> <td>窒素</td> <td>磷酸</td> <td>加里</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一、八〇〇</td> <td>一、五〇〇</td> <td>二、〇〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>三、〇〇〇</td> <td>二、五〇〇</td> <td>三、二〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>四、五〇〇</td> <td>四、〇〇〇</td> <td>四、六〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>六、〇〇〇</td> <td>六、〇〇〇</td> <td>六、五〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一〇、〇〇〇</td> <td>一〇、〇〇〇</td> <td>一〇、〇〇〇</td> <td></td> </tr> </table>	三要素		加里		窒素	磷酸	加里		一、八〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇		三、〇〇〇	二、五〇〇	三、二〇〇		四、五〇〇	四、〇〇〇	四、六〇〇		六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、五〇〇		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇		<p>○加里分ハ樹勢ヲ強健ニシ收量ヲ増シ食味外觀ヲ良好ニシ貯蔵力ヲ大ニス</p> <p>○施肥量ハ土質、品質、整枝法、成育状態ニ依リ一概ニ定メ得ナイ</p> <p>○上記ノ標準ニ依リ各自ノ園ニ就キテ定ムル可キデア</p>
三要素		加里																												
窒素	磷酸	加里																												
一、八〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇																												
三、〇〇〇	二、五〇〇	三、二〇〇																												
四、五〇〇	四、〇〇〇	四、六〇〇																												
六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、五〇〇																												
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇																												
○接木ハ二十日前ニ終了スルコト																														
○接穂ハ枝ノ中央部ノ充實セル部分ヲ用フ																														
○砧木ハ穂木ノ芽ニ比シ發育ノ進メルモノヲ良トス																														
○挿木圃ハ乾燥ニ失セザル粘重土ヲ良シトス																														
○貯蔵庫温度ノ調節換氣ニ注意シ腐敗果多ケレバ速ニ販賣スルガ有利デア																														

五		四		月	
中	上	下中上	下		
摘果	藥劑撒布	藥劑撒布	藥劑撒布		
○第一回摘果 一花叢二―三個トス	○果實ノ形ヲ表ハシタル頃四斗式石灰ボルドー液ノ撒布 ○硫酸ニコチン砒酸鉛ヲ混用スルコト前月ニ同ジ ○鋸蜂、姬心喰蟲、蚜虫、粉虱等ノ驅除ニニコチン劑ノ撒布	○花蕾ノ綻ビカケタル時ヲ失セズ三斗式石灰ボルドー液撒布 ○鋸蜂、心喰蟲ニ硫酸ニコチン又ハ砒酸鉛ヲ單用又ハ加用セル前項石灰ボルドー液ヲ撒布ス	○赤星、黒星、黒斑等ノ諸病菌ノ防除ニ催芽前三斗式石灰ボルドー液ヲ撒布ス	○今期ノボルドー液ハ等量式ニテ可ナリ	
○残ス可キ幼果ハ次ノ標準ニ依ル 1、基部ノモノヨリ三―五位ノモノ 2、横向キノモノ 一九	○過石灰(二〇〇匁)ボルドー液トスルヲ要ス ○姬心喰蟲現ハルニ付之ガ驅除ニハ上記藥劑ノ混用又ハ單用其ノ他デリス劑ノ撒布ヲ勵行スベシ	○硫酸ニコチンハ一、〇〇〇倍(水一斗ニ五匁トス) ○砒酸鉛ハボルドー液一斗ニ付一五匁トス ○撒藥ハ各旬一回宛トシ花ノ満開期ヲ避クベシ			

六	月
中上	
藥劑撒布	藥劑撒布
○四斗式過石灰ボルドー液撒布 硫酸鉛又ハ硫酸ニコチン混用	○四斗式過石灰ボルドー液撒布 硫酸ニコチンハ〇〇倍液又 ハデリス劑混用又ハ單用撒布
○各句一回撒布 ボルドー液一斗ニ付硫酸鉛一五匁又ハ硫酸 ニコチン八〇〇倍カゼイン石灰五匁	○夏季剪定ノ効果如何ハ冬季剪定ニ起因ス ルコト大ナリ ○剪定度ハ冬季強ケレバ夏季弱ク冬季弱ケ レバ夏季強クトモ可ナルヲ普通トス ○改良棚仕立ニハ必ず夏季剪定ヲ施サザル ベカラズ ○徒長枝ノ發生少キ部位ハ冬季弱剪定ヲ行 ヒ夏季ノ剪定ニ三回勵行スルヲ要ス ○ボルドー液調台量 生石灰 二〇〇―三〇〇匁 硫酸銅 一〇〇―二〇〇匁 カゼイン石灰 二〇〇匁 水 四斗

下	中
摘果袋掛	藥劑撒布
夏季剪定	○四斗式石灰一四〇匁ボルドー液撒布加用 藥劑前句ニ同ジ
○本年生新梢ハ左ノ要領ニテ剪定ス 1、主枝ノ表面ヨリ直上セル徒長枝ハ基部ヨリ剪除ス 2、普通發育枝一尺以上ニ伸長セルモノハ七一八葉ヲ殘シテ剪定ス 3、五―六寸以内ノモノハ剪定セザルヲ普通トス ○冬季ニ短剪セル前年生枝梢ヨリ生ゼル新梢ノ處理要領次ノ如シ 1、殘セル葉芽全部發育枝トナリタル時ハ最強枝ハ剪除シテ中庸ノ枝ハ七一八葉ニテ剪定他ハ一―二葉ヲ殘シテ短剪ス 2、上位ニ發育枝下位ニ結果枝トナルベキモノアル時ハ發育枝ノ下位ノモノ一枝ハ七―八葉ニテ剪定他ハ剪除シ結果枝ハ放任ス 3、全部結果枝トナル見込ナレバ放任ス	○一花序一個トス ○摘果ト同時ニ袋掛ケヲ行フ 1、被掛ケヨリモ花梗掛ケトスルヲ良トス 2、花梗ニ綿ヲ卷キ其ノ上ニ袋ヲ結付スルヲ良シトス 3、七月掛換ヘテ行フモノハ新聞紙十六切小袋ニテ可ナリ ○殘置果實ノ選擇前句ニ同ジ ○袋ノ結付材料ハ齒又ハ二十八番針金ヲ用フレバ安全デアル ○七月掛替ヘテ行ハサル早中生種ハ二重袋ヲ用フレバ安全ナリ ○袋ハ有底ノモノヲ使用スベシ ○強度ノ夏季剪定ハ有害無効ナリ ○剪定ヨリモ摘心ヲ主トスベシ ○剪定ヲ加ヘズ誘引捻曲ヲ行フコトモ有効ナル操作ナリ洋梨、支那梨ニ於テ特ニ然リ ○主枝ノ先端ハ摘心ヲ加ヘズ徒長的ニ生育セシムルヲ可トス
○殘置果實ノ選擇前句ニ同ジ ○袋ノ結付材料ハ齒又ハ二十八番針金ヲ用フレバ安全デアル ○七月掛替ヘテ行ハサル早中生種ハ二重袋ヲ用フレバ安全ナリ ○袋ハ有底ノモノヲ使用スベシ ○強度ノ夏季剪定ハ有害無効ナリ ○剪定ヨリモ摘心ヲ主トスベシ ○剪定ヲ加ヘズ誘引捻曲ヲ行フコトモ有効ナル操作ナリ洋梨、支那梨ニ於テ特ニ然リ ○主枝ノ先端ハ摘心ヲ加ヘズ徒長的ニ生育セシムルヲ可トス	3、花梗ノ短大ノモノヨリ中庸ノモノ 4、成木一樹ニ就キ四〇〇花序ニテ充分デアル

月 七		月 八	
下中	上	下	追肥
袋掛替	追肥	夏季剪定	追肥
○中晩生種ニ袋掛替ヲ行フ袋ハ新聞袋ハ切リ大トス	○前月未了ノ場合至急施行ヲ要ス ○二番副梢ノ生ゼザルモノハ摘除又ハ摘心ヲナス ○中晩生種ニ速効性肥料ヲ施ス 前月ニ同ジ	○第一回剪定ニ依リ副梢ヲ生ゼザルモノハ更ニ三―四葉ヲ殘シテ剪去又ハ間引ヲ行フ ○其ノ他一般前回ニ準ズ ○前旬ニ準ズ硫酸ニコチン加用ヲ可トス (硫酸鉛ハ藥害ヲ見ルコトアリ)	○早生種ニハ速効性肥料ヲ施ス ○多量ノ追肥ハ次年ノ花芽ヲ減少ス
○袋掛替ハ硫酸ニコチン撒布ノ直後ヲ良シトス ○撒藥ハ一〇日毎ニ一回トス	○窒素分少ク加里分多キヲ良シトス ○施肥ハ全面撒布ニテ深耕ス可カラズ	○前月同様ノ注意ニ依リ強度ノ剪定ハ不可ナリ ○果芽ノ分化期デアルカラ摘心剪定ノ度及時期ニ注意ヲ要ス ○剪定期早キニ失スルカ強度ニ施セバ副梢更ニ伸長シ時期ヲ失スレバ花芽着生セズ ○姫心喰蟲ノ發生盛ントナル故上記ノ外ニコチン劑デリス劑ノ撒布勵行ノ要アリ	

月 九		月 八	
下	中上	下中上	追肥
藥劑撒布	藥劑撒布	藥劑撒布	追肥
○新高、早生赤、明月ノ採收ヲ始ム ○四斗式等量石灰ホルド―液撒布	○硫酸ニコチン八〇〇―一〇〇〇倍液ノ撒布 ○上中旬ハ長十郎菊水廿世紀等採收ノ盛期トナル	○前旬ニ準ジ各旬一回宛トス ○上中旬ニ早生ノ市原、石井、八雲、博多青 下旬ヨリ長十郎、菊水、廿世紀ノ採收ヲ行フ	○前旬ニ準ズ
○早生赤ハ貯藏スルヲ有利トス ○今期ノ撒藥ハ黒星病黒斑病等ノ秋季及明年ノ發生豫防ニ効アリ ○姫心喰蟲、蚜蟲、軍配蟲驅除ニハ硫酸ニコチン混用ノコト	○各市場ニ梨ノ出荷多キ時期ナル故商品價ヲ高メルコトニ留意スベキデアアル ○收穫ハ完熟ヲ待タズ稍々早日ニスルヲ良シトス ○軍配蟲、蚜蟲、姫心喰蟲驅除	○「ダニ」ノ發生ニ注意スベシ之ガ驅除ハ蚜蟲ニ準ズ ○撒藥ハ早生ハ上旬 回中生ハ上中旬二回 晩生ハ各旬三回トス ○石灰ホルド―液ニ硫酸鉛又ハ硫酸ニコチンヲ混用スルコト前記ニ同ジ ○採收セル果實ハ一夜室内ニテ放熟シタル後荷造リスルヲ要ス	

十	月	一	十
中上		下中	上
收穫貯藏	追肥	收穫貯藏	收穫貯藏
○前月未了ノ作業ハ可成上旬ニ完了スル	○晚生種ノ結果過多ノモノハ採收後直チニ前月ニ準ジ追肥ヲナス ○收穫後直チニ前月同様ノ撒藥ハ明年ノタメニ有効デアル	○今村秋晚三吉ノ採收及貯藏ヲ行フ	○早中生種ノ收穫後勢力回復ニ速効性肥料ヲ施ス ○前月ニ引續キ行フ ○前旬ニ準ズ
○越冬スル害虫ヲ誘殺スルタメ樹幹ノ所々ニ藁布等ヲ纏ヒ潜伏所ヲ作ル	○傾斜度一〇度以上ノ地ハ巾二間半(六尺ニ付一尺ノ傾斜)ニ一列植又ハ四一五間(二列植)ノ階段トスルヲ可トス	○貯藏ハ一晝夜位放冷シテ行フ可シ ○貯藏果ハ熟度適當ニシテ病蟲害無キモノヲ選ノコト ○梨ノ貯藏ハ乾燥ヨリモ或程度ノ濕氣ヲ必要トスルコトニ留意スベシ ○貯藏箱及貯藏庫ハ「ホルマリン」八〇〇— —〇〇〇倍液又ハ硫黃燻蒸ニテ消毒ス	○此ノ期ノ追肥ハ窒素ヲ主体トシ一ケ年全量ノ一割内外トス ○本月ニ於テモ前旬同様一回石灰ボルドー液ヲ撒布スルヲ良シトス

月	二	十	月一
		下中上	下
殘業整理	藥劑撒布	棚架	園ノ清潔
○年内ニ行フベキ諸作業ヲ完了結末ス ○諸帳簿ノ整理ヲナシ今年ノ成績ヲ明確ニスルコトガ必要デアル	○介殼蟲ノ驅除ニ機械油乳劑一〇—一五倍液(油分三—五%)撒布	○新植又ハ未設ノ幼木園ニ架棚ス	○閉園ノ着手及冬季植付ケノ施肥ヲ行フ ○落葉、枯死、古袋等ハ總テ集メテ之レヲ燒却ス
○過去一ケ年ノ成績ヲ反省シ來ル可キ明年ノヨリ良キ計劃ヲ考究スル	○機械油乳劑調合量 Cマシン油 一八升 アデカ農藝石鹼 四升 水 一〇—一五升 膠 一—五升	○棚架可成コンクリート鐵線作リトナスハ結局經濟的ナリ	○藥劑ノミニ頼ル病蟲害防除ハ充分ノ効果ヲ擧ゲ得ナイ必ズ冬季ノ圓及樹体ノ清潔ヲ勵行スベキデアル ○植付ハ落葉後三月上旬迄デアアルガ寒氣加ハラヌ中ニ完了スルガ良イ寒氣豫防ニ數藥ヲナシ其ノ他注意ヲ怠ラヌコト ○棚架可成コンクリート鐵線作リトナスハ結局經濟的ナリ

葡萄栽培月別行事表

月	旬	作	業	方	法	備	考
一	上	計	劃	種々ノ計劃ハ詳細ニ定メ萬遺漏ナキヲ期スルコト	自家ノ農業經營ヲ基調トシタ合理的ノ計劃デナケレバナラヌ	生産ハ販賣ヲ基調トシ計劃セネバナラヌ故ニ既往ノ販賣成績ニ鑑ミテ一定ノ方針ヲ定メル事ガ必要デアル	越冬病蟲驅除ヲ目的トス
中	病	蟲	防	剪定剥皮終了後石灰硫黄合劑四度液ヲ撒布ス	越冬病蟲驅除ヲ目的トス	石灰硫黄合劑ハ自家調製ヲ可トス	調合量 生石灰 六〇〇匁 硫黄華 一、二〇〇匁 水 一升 熟シ硫黄華ヲ投ジ 四分位加熱ス
施	肥	早	生	種ニハ全量ヲ今期ニ施用ス	今期ノ施肥ハ勞力ノ關係上十二月下旬ヨリ二月上旬迄ニ實施スレバ良イガ堆肥石灰等ノ過効肥料ハ早ク施スヲ可トス	肥料種類ハ完熟堆肥ヲ主体トシ之ニ油粕類、魚肥、過磷酸石灰、硫酸加里等ヲ配合シテ施用スル	石灰ハ十二月深耕ノトキ全國ニ撒布シ耕入スルコト
		後	ハ	全園ニ施肥	二年生ニハ徑四尺位、三年生ニハ徑六尺一八尺位ニ輪狀ニ施肥スル	甲州ニハ上記標準ノ三割増シトスル	

月	旬	作	業	方	法	備	考	
二	上	棚	ノ	修	理	〇棚ノ修理ハ今月中ニ終ル様行フ	〇新ラシク棚架スルモノハ十二月行事参照	
		枝	條	ノ	誘	引	〇剪定終了後枝梢ハ今月中旬迄ニ誘引ヲナス	
		果	實	袋	ノ	製	造	〇農閑期ヲ利用シテ果實袋ヲ作ル
							〇袋ハ新聞紙ニテ可ナリ 紙ハツ切大ノモノ(甲州及ビキヤンベル スアール)及ビ十六切大ノモノ(デラウ エアー)ニテ良イ袋ハ有底トスルコト	
							〇遲効性ノモノハ今期ニ施用ス	
							〇施肥ノ方法ニ二年生迄ハ輪狀ニ四年生以後ハ全園ニ施肥	
							施肥量標準(デラウエアー段當 七十五本植) 窒素 二、〇〇〇 磷酸 一、五〇〇 加里 二、〇〇〇 二年生 三、〇〇〇 三年生 四、〇〇〇 四年生 五、〇〇〇 五年生 六、〇〇〇 六年生 七、〇〇〇 八年生 七、五〇〇	

三月		中
病蟲害防除	挿木	病蟲害防除
○發芽前ニ硫酸鐵液加用石灰ボルドー液又ハ硫酸鐵液ヲ撒布スベシ	○砧木或ハ優良品種系統ノ繁殖ニハ挿木ヲ行フ	○發芽前ニ硫酸鐵液加用石灰ボルドー液又ハ硫酸鐵液ヲ撒布スベシ
○硫酸鐵液加用石灰ボルドー液ハ石灰ボルドー液ヲ作リ之ニ硫酸鐵ヲ加ヘテ攪拌ス	○充實セル枝梢ヲ三芽位ニテ切り膨軟ナル土地ニ斜ニ挿シ見エザル程度ニ土ヲ覆フ	○硫酸鐵液加用石灰ボルドー液ハ石灰ボルドー液ヲ作リ之ニ硫酸鐵ヲ加ヘテ攪拌ス
○硫酸鐵液ハ硫酸鐵一、六〇〇匁硫酸五〇匁水一斗トシ先ヅ硫酸鐵液ヲ作リ之ニ硫酸ヲ加ヘル	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○硫酸鐵液ハ硫酸鐵一、六〇〇匁硫酸五〇匁水一斗トシ先ヅ硫酸鐵液ヲ作リ之ニ硫酸ヲ加ヘル
○今期ノ撒布ハ冬季越冬ノ病菌（黒痘病露菌病）ヲ驅除スルヲ目的トス	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○今期ノ撒布ハ冬季越冬ノ病菌（黒痘病露菌病）ヲ驅除スルヲ目的トス
○硫酸鐵液ハ塗布シテモ可	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○硫酸鐵液ハ塗布シテモ可
○使用スル枝梢ハ結果枝ヲ可トス	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○使用スル枝梢ハ結果枝ヲ可トス
○挿穂ハ充實セル枝梢ヲ剪定ノ際採リ置キ貯藏スルコト（逆轉シテ土中ニ埋ム）	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○挿穂ハ充實セル枝梢ヲ剪定ノ際採リ置キ貯藏スルコト（逆轉シテ土中ニ埋ム）
○土壤ノ水分ハ五〇％位ヲ適當トス過濕過乾ハ不良ナリ	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○土壤ノ水分ハ五〇％位ヲ適當トス過濕過乾ハ不良ナリ
○各種病害ノ防除ヲ目的トシ發芽當時撒布スルコト	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○各種病害ノ防除ヲ目的トシ發芽當時撒布スルコト
○葡萄ニ對スル石灰ボルドー液ハ必ズ少石灰トスルコト	○五斗式少石灰ボルドー液ノ撒布	○葡萄ニ對スル石灰ボルドー液ハ必ズ少石灰トスルコト

四月		上
病蟲害防除	下	病蟲害防除
○前ニ同ジ	○枝梢ノ交錯ヲ避ケ伸長枝ノ充實ヲ計ルタメ各枝ノ芽搔ヲ行フ	○前ニ同ジ
○一芽ヨリ二本以上發生ノ時ハ良好ナルモノ一本トシ他ハ搔キ取ル	○一結果母枝（七一五芽）ヨリノ發生枝（結果枝）ハ三―五本トスルコト	○一芽ヨリ二本以上發生ノ時ハ良好ナルモノ一本トシ他ハ搔キ取ル
○四本發生セシムル時ハ頂端ヨリ二本ト中央以下ヨリ二本トス他ハ芽搔ヲナス	○芽搔ハ葡萄栽培上最モ必要ナル操作ニシテ新梢發生伸長期ノ始メニ行フ故今期ヨリ五月中旬迄行フ	○四本發生セシムル時ハ頂端ヨリ二本ト中央以下ヨリ二本トス他ハ芽搔ヲナス
○少石灰五斗式ボルドー液撒布ノコト	○各種病害豫防ヲ目的トス	○少石灰五斗式ボルドー液撒布ノコト
○葡萄害蟲（ミドリヨコバイ）ニ葡萄芽喰象「等發生ノ慮アレバ硫酸鉛ヲ一石ニ付一二〇匁加用ス	○各新梢間ノ距離ハ六一七寸以上タラシムルコト	○葡萄害蟲（ミドリヨコバイ）ニ葡萄芽喰象「等發生ノ慮アレバ硫酸鉛ヲ一石ニ付一二〇匁加用ス
○硫酸銅 一二〇匁	○結果枝發生ノ數ハ左記標準トナス	○硫酸銅 一二〇匁
○カゼイン石灰一斗ニ付五匁加用ス	三年目 二〇〇本	○カゼイン石灰一斗ニ付五匁加用ス
	四年目 一〇〇本	
	五年目 一〇〇本	
	六年目 一〇〇本	
	七年目 一〇〇本	
	八年目 一〇〇本	
	九年目 一〇〇本	
	十年目 一〇〇本	
	十一年目 一〇〇本	
	十二年目 一〇〇本	
	十三年目 一〇〇本	
	十四年目 一〇〇本	
	十五年目 一〇〇本	
	十六年目 一〇〇本	
	十七年目 一〇〇本	
	十八年目 一〇〇本	
	十九年目 一〇〇本	
	二十年目 一〇〇本	
	二十一年目 一〇〇本	
	二十二年目 一〇〇本	
	二十三年目 一〇〇本	
	二十四年目 一〇〇本	
	二十五年目 一〇〇本	
	二十六年目 一〇〇本	
	二十七年目 一〇〇本	
	二十八年目 一〇〇本	
	二十九年目 一〇〇本	
	三十年目 一〇〇本	
	三十二年目 一〇〇本	
	三十四年目 一〇〇本	
	三十六年目 一〇〇本	
	三十八年目 一〇〇本	
	四十年目 一〇〇本	
	四十二年目 一〇〇本	
	四十四年目 一〇〇本	
	四十六年目 一〇〇本	
	四十八年目 一〇〇本	
	五十年目 一〇〇本	
	五十二年目 一〇〇本	
	五十四年目 一〇〇本	
	五十六年目 一〇〇本	
	五十八年目 一〇〇本	
	六十年目 一〇〇本	
	六十二年目 一〇〇本	
	六十四年目 一〇〇本	
	六十六年目 一〇〇本	
	六十八年目 一〇〇本	
	七十年目 一〇〇本	
	七十二年目 一〇〇本	
	七十四年目 一〇〇本	
	七十六年目 一〇〇本	
	七十八年目 一〇〇本	
	八十年目 一〇〇本	
	八十二年目 一〇〇本	
	八十四年目 一〇〇本	
	八十六年目 一〇〇本	
	八十八年目 一〇〇本	
	九十年目 一〇〇本	
	九十二年目 一〇〇本	
	九十四年目 一〇〇本	
	九十六年目 一〇〇本	
	九十八年目 一〇〇本	
	一〇〇年目 一〇〇本	

六	月	五
上	下	中
摘心誘引	病蟲防除	摘心
○前旬ニ準ズ	○前旬ニ準ズ(驅蟲劑加用) ○副梢ノ摘心 ○前旬ニ準ズ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
環狀剝皮	病蟲防除	誘引
○落花一〇日位後ニ結果枝ノ基部ニ一分一 一分五厘位ノ廣サニ行フ	○少石灰五斗式ボルドー液撒布(砒酸鉛又ハ硫酸ニコチン加用) ○落花生一〇日位後ニ結果枝ノ基部ニ一分一 一分五厘位ノ廣サニ行フ	○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
病蟲防除	病蟲防除	病蟲防除
○新梢ハ保護ヲ加ヘテ風害ヲ蒙ラザル様注意スルコト	○少石灰五斗式ボルドー液撒布(砒酸鉛又ハ硫酸ニコチン加用) ○落花生一〇日位後ニ結果枝ノ基部ニ一分一 一分五厘位ノ廣サニ行フ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
果房ノ間引	果房ノ間引	果房ノ間引
○一結果枝ニ左ノ標準ニテ果房ノ間引ヲナス 一結果枝ニ結果セシムル房數 デラウエア一 一―四房 キヤンベルス 一―三房 ア―リー 州 一―二房 各樹勢ニ應ジテ定メル	○一結果枝ニ左ノ標準ニテ果房ノ間引ヲナス 一結果枝ニ結果セシムル房數 デラウエア一 一―四房 キヤンベルス 一―三房 ア―リー 州 一―二房 各樹勢ニ應ジテ定メル	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
果粒ノ間引	果粒ノ間引	果粒ノ間引
○粒ノ密着セルモノハ果粒ノ間引ヲナス	○粒ノ密着セルモノハ果粒ノ間引ヲナス	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス

三〇

中	中	中
病蟲防除	病蟲防除	病蟲防除
○前旬ニ準ジテ行フ ○前旬ニ終了セサル行事ヲ行フ ○病蟲害豫防ヲ目的トシ果粒ノ大豆大ノ時ヨリ行フ	○前旬ニ準ジテ行フ ○前旬ニ終了セサル行事ヲ行フ ○病蟲害豫防ヲ目的トシ果粒ノ大豆大ノ時ヨリ行フ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
其ノ他	其ノ他	其ノ他
○袋ノ内面ニ硫黃ヲ撒布シテ用フレバ果實ノ腐敗病菌ヲ防グ効アリ	○袋ノ内面ニ硫黃ヲ撒布シテ用フレバ果實ノ腐敗病菌ヲ防グ効アリ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
袋	袋	袋
○袋ハ有底ノモノヲ用ヒ果梗ノ基部ニ結束ス	○袋ハ有底ノモノヲ用ヒ果梗ノ基部ニ結束ス	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
摘心誘引	摘心誘引	摘心誘引
○主トシテ早期販賣ヲ目的トスル早生種ニ行フ	○主トシテ早期販賣ヲ目的トスル早生種ニ行フ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
剝皮	剝皮	剝皮
○剝皮ニハ剝皮器ヲ用フ	○剝皮ニハ剝皮器ヲ用フ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
果房ノ間引	果房ノ間引	果房ノ間引
○一樹ノ結果數、成果期デ左記ノ通りトナル (段當七十五本植) デラウエア一 二五〇―三〇〇房 キヤンベルス 二〇〇―二五〇房 ア―リー 州 一五〇―二三〇房 貫内 外	○一樹ノ結果數、成果期デ左記ノ通りトナル (段當七十五本植) デラウエア一 二五〇―三〇〇房 キヤンベルス 二〇〇―二五〇房 ア―リー 州 一五〇―二三〇房 貫内 外	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
果粒ノ間引	果粒ノ間引	果粒ノ間引
○間引ハ小豆大ノ時ヨリ始メ二回位ニ行フ	○間引ハ小豆大ノ時ヨリ始メ二回位ニ行フ	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス
内部ノモノヲ除ク様ニシ果形ヲ損シナイ様ニスルコト	○内部ノモノヲ除ク様ニシ果形ヲ損シナイ様ニスルコト	○結果枝ハ開花前ニ房上五枚ノ芽ヲツケテ摘心ス ○豫備枝ハ適宜誘引シテ伸長ヲ助ケル ○前旬ニ準ズルモ開花盛期ニハ行ナハザルヲ可トス

三一

月		七	
下	中	上	
販賣用意	摘心	防旱	病蟲防除
袋ノ掛替	摘心	防旱	誘引
○早生種ハ來月ヨリ採收サレルノデ販賣用具ノ準備ヲ完了スル	○晚生種ノ袋ノ破損シタルモノハ取換ヘル	○前旬ニ準ズ	○雨多キトキニハ病害發生多キ故晴間ヲ見テ少石灰五斗式ボルドー液ヲ前旬ニ引續キ撒布スルコト(硫酸ニコチン加用)
○今期以降九月迄ハ實ニ病害ノ發生被害ガ多イ故充分注意シテ行フ	○豫備枝ヲ放任シオク時ハ基部ノ充實不良ニシテ完全ナル結果母枝ヲ得ルコトヲ得ズ故ニ冬季減ズベキ節數ヨリ四一五芽先ニテ摘心スル	○乾燥地ニテハ夏季ノ過乾ヲ防タタメ敷藥ヲ行フ	○前旬ニ引續キ施行ノ事
	○豫備枝ハ伸長良好ニシテ二十節以上ノモノハ先端ヲ摘心スル		○今期ハ害蟲ノ發生多ケレバボルドー液ヲ撒布セザル場合モ殺蟲劑ノ撒布ヲ必要トス硫酸ニコチン石鹼液又ハデリゲン殺蟲劑等
	○栽植當時ノモノハ七尺デ摘心スル(棚整枝)		○梅雨後日光強射スレバ日蔭ノ葉ハ黃變落葉スル場合多シ故ニ新梢發生誘引ヲ完全ニ行ヒ日光ノ透射ヲ計ルコト必要ナリ

月			
下			
誘引	摘心	追肥	病蟲防除
○前月ニ準ズ	○前月ニ準ズ	○前旬ニ準ズ	○前旬ニ準ズ
		○晚生種(九月中旬以降採收サレルモノ)ニハ今期ニ速効性肥料(磷酸加里ヲ主トシ少量ノ窒素ヲ加ヘル)ヲ與ヘル	○根接ニ用フル砧木ハ勢力強キモノタルコト
			○根接ノ方法ハ樹幹ノ下腹ヲ上方ニ斜割シ砧木ハ上頂ヲ楔形ニ鋭ク削リテ之ノ切傷面ヲ樹幹ノ側傷面ニ接着セシメ細ニ縛束ス
			○砧木ニヨリ果ノ品質、樹ノ生育等ニ差ヲ生ズルヲ以テ砧木ハ土地品種ニ適シタルモノヲ撰ブヲ要ス
			○病蟲發生少キ處及早生種耐病種等ニハ今期撒布ヲ以テ終ツテヨイ
			○晚腐等ノ發生多キ處ニテハ引續キ撒布スルコト
			○今期ノ施肥ニ窒素肥料ヲ過用スレバ枝梢ノ繁茂ヲ盛ンニシ病蟲ノ發生ヲ多クスル外果實ニ對シテモ害アリ注意ヲ要ス
			○砧木ニヨリ果ノ品質、樹ノ生育等ニ差ヲ生ズルヲ以テ砧木ハ土地品種ニ適シタルモノヲ撰ブヲ要ス
			○優良品種 テレキ B 八號 四二〇號ノ A

月十	月九	月八
上	上	上
採 園ノ 整理	採 販 採 販	採 販
○晚生種ノ採收 ○落葉等掻集メ燒却シ整理ヲ行フ	○前月ニ準ス ○露菌病其ノ他果實ノ病害ノ發生多ケレバ 少石灰ボルドー液ヲ撒布ス ○スカンバ多キトコロニテハ枝梢ノ蠹入部 ヲ割キ蠹ヲ捕殺ス	○早生種(キヤンベルスアーリデラウエア)ノ採收開始
○果ノ着色ハ樹勢衰弱、結果過多、季ニヨ リ悪クナル場合多ク袋ノミニテ害サルハ コトハ少ナイガ日光ヲ與ユレバ早クナル	○米國種ノ葡萄ハ今期ニ露菌病ノ發生多シ ○袋掛ヲ行ハザル果房ニハ晚腐房枯等發生 多シ ○スカンバ蠹入部ノ枝蔓膨大シ一見明カナ リ之ノ部ヲ銳利ナル小刀ニテ割キ幼蟲ヲ 殺シ後藥ニテ卷縛ス	○着色成熟後販賣ノ適期ヲ見テ順次採收ス ○販賣ハ栽培ノ最後ノ重大事業デアル故最 モ注意シテ有利ニ販賣スルコトガ必要デア ル

月十	月一	月十
上	下	上
栽 植	園地ノ深耕	落葉處分 栽植準備
○栽植ノ適期ナリ苗ハ基部ノ二芽ニテ剪定 シ栽植ス	○落葉シ休眠期ニ入レバ深耕ス石灰堆肥ハ 此ノ際耕入スル彙ニス	○落葉ハ集メテ燒却ス ○新タニ栽植セムトスル圃場ニハ植穴ヲ掘 リ準備スベシ 栽植距離 デラウエア 二間四方 キヤンベルス 段當七十五本 アーリー 三間一三間半四方 甲州 段當三十三一二十四本
○栽植ノ深サハ苗圃當時ノ深サトス 灌水ヲナシ敷葉ヲシテ早害ヲ防グコト	○深耕ノ時ハ太根以外ノモノハ相當切ツテ モ良イ	○落葉ハ病菌ヲ保有スルコト多シ必ズ燒却 スベシ ○開墾他ハ傾斜一〇度以下ノ處ニテ階段畑 ノ時ハ段巾二間以上ノ事 ○栽植地ハ石灰段當三〇貫ヲ施シ深耕シ植 穴ハ三尺徑深サ二尺位ニ掘リ中ニ完熟堆 肥一、五〇〇匁大豆粕一五〇匁ヲ入レテ オク ○縣獎勵品種ハ「デラウエア」一「キヤンベ ルアーリー」ニ「甲州」ナリ ○苗木ハ接木苗(フイロキセラ免疫砧木使 用)ヲ可トスルモ栽植後根接スルモ可ナ ル故挿木苗購入ノ時ハ免砧(テレキB八 號四二〇ノA等)ヲ同時ニ購入シ培養ス ルヲ要ス

中
剪整
枝定

○整枝法(棚仕立ヲ可トス)(棚整枝法)

1、春季二本ノ新梢發生セバ内優良ナルモノ一本トシ七尺位ノトキ摘心シ充實ヲ計ル

2、冬季ニハ五尺五寸位ノ處デ剪定ス

3、翌春ハ四本ノ枝ヲ出シ主枝トシ七月ニ摘心シテ充實ヲ計ル

4、冬季ニハ各主枝ハ三、四尺デ剪定シ各主枝ハ同一ノ角度ヲ便ナラシム

5、翌春發生セシ主枝ノ先端ニ枝ハ亞主枝トシテ取扱ヒ七月ニ摘心シテ充實セシム

6、冬季ニハ亞主枝ハ三、四尺ニテ剪定シ他ハ側枝トシテ取扱ヒ結果母枝トスル亞主枝ハ主枝ト直角ニ兩方ニ誘引ス

○側枝ノ剪定法

○結果母枝ノ更新
1、結果母枝ハ管理良好ナレバ結果母枝トナルガ年々舊梢ガ多クナルノデ更新ヲ必要トス

2、故ニ結果母枝ヲ殘スト同時ニ豫備枝トシテ結果枝又ハ其ノ他ノ枝ヲ二芽ニシテ

○二年目ニハ結果スルガ本幹ノ下位ノ處ニハ結果セシメテモ良イガ主枝ニハ結果サセナイ
○三年目ニハ亞主枝以外ノ枝ニハ結果セシメテ良イ主幹ノ側枝ハ剪除スル
○四年デ樹形ハ完成スル

○花芽ハ一年生枝梢ノ充實シタルモノ、腋芽トシテ發生ス
○花芽ノ良否ハ貯藏養分ノ多少ニヨリ貯藏養分ハ葉ノ健否枝ノ熟度ニヨツテ異ル
○花芽ノ着手位置ハ節間長キモノハ遠ク短

棚ノ修理其ノ他
決算

○暇ヲ見テ適宜修理ヲナス
○過去一年ノ實績ヲ再檢討シ明年ノヨリ良キ計劃ノ樹立ヲナスベキデアル

- 3、切返ス
- 3、結果母枝ノ殘數ハ坪當リ六、八本位デヨイ
- 4、豫備枝ハ母枝ト同數デヨイ
- 結果母枝ノ剪定
- 1、前年ノ豫備枝ヨリ發生シタ二本ノ枝梢中良キモノ一本ヲ母枝トシテ殘シ他ヲ豫備枝トシテ二芽デ剪定スル
- 2、母枝ノ長サハ品種、枝ノ充實度ニヨリ異ル
- デラウエア 二一、一五芽
- キヤンベルス 五、一〇芽
- ア、リ 五、一〇芽
- 3、右品種デハ枝梢充實ノ狀況及其ノ位置ニヨリ長梢、短梢剪定ヲ混用スル

キモノハ基部デアアル又強枝ハ遠ク弱枝ハ基部デアアル

○夏季ノ手入不充分ノモノハ良枝ハ得ラレナイ

○結果母枝トシテハ生長ノ強勢ナル而シテ早ク伸長ヲ停止セル充實シタルモノ最可トス

○枝梢ノ剪裁ハ節ノ部分ヲ可トスル

○剪定ハ今期ヨリ一月中適期デアアル

○遅クレルト樹液ノ流動早キタメ悪シ

枇杷栽培月別行事表

月	旬	作	業	方	法	備	考
月	上	計	劃	樹	立		
	中	紙	開	袋	張	紙	開
	下	栽	植	準	備		
月	上	計	劃	樹	立		
	中	紙	開	袋	張	紙	開
	下	栽	植	準	備		
月	上	計	劃	樹	立		
	中	紙	開	袋	張	紙	開
	下	栽	植	準	備		

月	旬	作	業	方	法	備	考
月	上	計	劃	樹	立		
	中	紙	開	袋	張	紙	開
	下	栽	植	準	備		
月	上	計	劃	樹	立		
	中	紙	開	袋	張	紙	開
	下	栽	植	準	備		

下
老木更新

○初年ニ中心枝、直立枝ノ除去ニ努メ次年ヨリハ主枝ノ整理ヲ行フ

○老木ノ更新ヲ行フタメノ強度ノ剪定ハ今期ニ行ヒ春季萌芽ニ依ル新主枝ノ更正ヲ圖ル可シ

空	茂	木	田	中
一	二	一	一	一
二	三	二	二	二
三	四	三	三	三
四	五	四	四	四
五	六	五	五	五
六	七	六	六	六
七	八	七	七	七
八	九	八	八	八
九	一〇	九	九	九
一〇	一一	一〇	一〇	一〇
一一	一二	一一	一一	一一
一二	一三	一二	一二	一二
一三	一四	一三	一三	一三
一四	一五	一四	一四	一四
一五	一六	一五	一五	一五
一六	一七	一六	一六	一六
一七	一八	一七	一七	一七
一八	一九	一八	一八	一八
一九	二〇	一九	一九	一九
二〇	二一	二〇	二〇	二〇
二一	二二	二一	二一	二一
二二	二三	二二	二二	二二
二三	二四	二三	二三	二三
二四	二五	二四	二四	二四
二五	二六	二五	二五	二五
二六	二七	二六	二六	二六
二七	二八	二七	二七	二七
二八	二九	二八	二八	二八
二九	三〇	二九	二九	二九
三〇	三一	三〇	三〇	三〇
三一	三二	三一	三二	三一
三二	三三	三二	三三	三二
三三	三四	三三	三四	三三
三四	三五	三四	三五	三四
三五	三六	三五	三六	三五
三六	三七	三六	三七	三六
三七	三八	三七	三八	三七
三八	三九	三八	三九	三八
三九	四〇	三九	四〇	三九
四〇	四一	四〇	四一	四〇
四一	四二	四一	四二	四一
四二	四三	四二	四三	四二
四三	四四	四三	四四	四三
四四	四五	四四	四五	四四
四五	四六	四五	四六	四五
四六	四七	四六	四七	四六
四七	四八	四七	四八	四七
四八	四九	四八	四九	四八
四九	五〇	四九	五〇	四九
五〇	五一	五〇	五一	五〇
五一	五二	五一	五二	五一
五二	五三	五二	五三	五二
五三	五四	五三	五四	五三
五四	五五	五四	五五	五四
五五	五六	五五	五六	五五
五六	五七	五六	五七	五六
五七	五八	五七	五八	五七
五八	五九	五八	五九	五八
五九	六〇	五九	六〇	五九
六〇	六一	六〇	六一	六〇
六一	六二	六一	六二	六一
六二	六三	六二	六三	六二
六三	六四	六三	六四	六三
六四	六五	六四	六五	六四
六五	六六	六五	六六	六五
六六	六七	六六	六七	六六
六七	六八	六七	六八	六七
六八	六九	六八	六九	六八
六九	七〇	六九	七〇	六九
七〇	七一	七〇	七一	七〇
七一	七二	七一	七二	七一
七二	七三	七二	七三	七二
七三	七四	七三	七四	七三
七四	七五	七四	七五	七四
七五	七六	七五	七六	七五
七六	七七	七六	七七	七六
七七	七八	七七	七八	七七
七八	七九	七八	七九	七八
七九	八〇	七九	八〇	七九
八〇	八一	八〇	八一	八〇
八一	八二	八一	八二	八一
八二	八三	八二	八三	八二
八三	八四	八三	八四	八三
八四	八五	八四	八五	八四
八五	八六	八五	八六	八五
八六	八七	八六	八七	八六
八七	八八	八七	八八	八七
八八	八九	八八	八九	八八
八九	九〇	八九	九〇	八九
九〇	九一	九〇	九一	九〇
九一	九二	九一	九二	九一
九二	九三	九二	九三	九二
九三	九四	九三	九四	九三
九四	九五	九四	九五	九四
九五	九六	九五	九六	九五
九六	九七	九六	九七	九六
九七	九八	九七	九八	九七
九八	九九	九八	九九	九八
九九	一〇〇	九九	一〇〇	九九

○老木更新ハ二一三年計劃ニテ行フ

○強剪定後萌芽發スル新梢ノ整理ヲ勵行セザレバ効ナシ

○施肥ト同時ニ全園ノ中耕ヲ行フ

○空素質肥料ハ必ず速効性ノモノニシテ磷酸加里分ヨリ少量タルヲ要ス

○施肥ノ全量及各期ノ分量ハ品種、土質、地形、結實量等ニヨリテ差異アル可キニ付キ各自ノ經驗ト研究ヲ以テ決定ス可シ

○春季肥料ハ必ず本月半迄ニ施用ヲ完了スルコト

○損ジ成熟ヲ晚ラセ年内ノ結果枝ヲ減ズル惧アリ

○合理的ノ春季施肥ハ果實ノ肥大ヲ促シ品質ヲ向上セシメ萌芽ヲ肥大セシムルニ効アリ

○四〇

上
摘果袋掛

○初年ニ中心枝、直立枝ノ除去ニ努メ次年ヨリハ主枝ノ整理ヲ行フ

○左ノ標準ニテ摘果ヲ行フ残スベキ果數

○茂木 三—四粒
田中 一—二粒

○残スベキ果實ハ次ノ條件ヲ具ヘタルモノトス

○イ、豊圓ニ肥大セルモノ

○ロ、果色濃キモノ

○ハ、害虫被害ナキモノ

○袋掛ハ新聞紙ニ花油引キノモノヲ用ヒ田中 十二—十六切リ一袋一果宛茂木 六切一袋一房宛ニ包ム

○摘果袋掛ケ晚クルレハ象鼻蟲ノ被害大トナル故上旬中ニ完了スル様心掛ケルコト

○種實ノ完全且ツ可成多數ニ存スル果實ヲ殘ス様心懸ケレハ誤ナシ

○有底袋ヲ良シトスルモ田中種ニテハ無底ニテ相當効果アリ

○象鼻蟲ノ發生ニ注意シ之ガ發生早キ所ニテハ三月下旬ヨリ袋掛ケヲ始ム可シ

○選果ハ等級ニ準ジ嚴重ニ行フコト

○荷造リモ規格ニ從ヒ丁寧且ツ商品價向上ニ努メルコト

中上
收種

○茂木種ノ收穫始マル

○着色充分ノモノヨリ始メ未熟果ヲ收納セヌコト

○果粉ヲ落サザル様丁寧ニ袋ヲ除キ果梗ヲ剪リ纏メルコト

○選果ハ等級ニ準ジ嚴重ニ行フコト

○荷造リモ規格ニ從ヒ丁寧且ツ商品價向上ニ努メルコト

月	
上	下
施	收
肥	穫
<p>○今期ノ施肥ハ左ノ割合ニヨツテ行フ</p> <p>1、三月及七月施肥スル場合 一ヶ年分窒素量ノ四割 一ヶ年分リン酸量ノ三割 全加里ノ三割</p>	<p>○田中種ノ收穫</p> <p>○田中種ノ收穫</p> <p>○早生種ニアリテハ前月下旬ヨリ施肥ヲ始ム</p> <p>○各要素共速効性ノモノタルコト</p> <p>○今期ノ施用量ハ左ノ標準ニ依ル</p> <p>一ヶ年分 窒素量ノ二割 全加里ノ三割</p> <p>○本年特ニ結果多ク樹勢衰へ且ツ明年ノ凶作ヲ豫想スルトキハ前記割合ヲ各要素共一割増シトス</p> <p>○施肥ヲ終レハ全園ニ敷藁ヲナス</p> <p>○施肥終レハ直チニ剪定芽掻キ作業ヲ始ム</p> <p>○今期ハ結果枝ノ剪定ト芽掻キヲ行ヒ強度ノ剪定ハ九月ニ行フ可シ</p>
<p>○結果枝(本年結果セル枝)ノ剪定ハ左ノ要領ニ依ル</p> <p>1、未ダ夏梢ノ發生セザルモノハ上部ヲ除キ種枝タリシ部分ニ四葉ヲ残ス</p> <p>2、多量ノ芽掻キセルモノハ下部ノ芽ヲ残シ上部ヲ剪去ス</p> <p>3、残スベキ新梢ハ外向キニシテ強大ナルモノ一本ヲ標準トス</p> <p>○採果後ノ枝ヨリ發生セル新梢ノ芽掻キハ次ノ事項ニ留意シテ行フ</p> <p>1、一枝ヨリ一本ノ新梢ヲ残ス</p> <p>2、常ニ下位ヨリ發生セル新梢ヲ残ス</p> <p>3、外向キ枝ヲ残ス</p>	<p>○各品種共收穫ヲ終レハ可成早ク施肥ヲ始メ遅クモ今月上旬中ニ完了スルヲ要ス</p> <p>○本年凶作ニシテ結果量少ク樹勢旺盛ナルモノニテハ今期ノ施肥ヲ必要トセズ</p> <p>○幼木ハ特ニ今回ノ施肥ヲ必要トセザルモ生育不良ノモノハ液肥施用ノコト</p> <p>○今期過量ノ施肥ヲ行フ時ハ着果枝痕ヨリノ夏枝ノ發生多キモ春枝ノ徒長ヲ促シ優良着花枝ノ減少ヲ來ス</p> <p>○花芽分化前即チ七月ニ強度ノ剪定ハ差控ヘルコト</p> <p>○採果痕ヨリ新梢ノ發生セザル前ニ剪定ニ着手スルコト</p>
<p>○採果痕ヨリ發生スルモノヲ放任セハ新梢過多トナリ良結果得難シ</p> <p>○採果痕ヨリ生ゼル新梢ニ直接着花枝ヲ生ズルコトアルモ其ノ率少ク且ツ良果ヲ生ゼズ</p> <p>○採果痕ヨリ優良ナル發育枝ヲ生ゼシメ之レヨリ次年着花枝ヲ發生セシムル様心懸ケルコト</p> <p>○芽掻キハ發生ノ初期ニ行フベシ</p> <p>○強勢ナル枝ヨリ生セル新梢ハ二本殘シトス</p> <p>○剪定、芽掻キヲ本月一回行フノミニテハ枇杷ノ性質上有害無効ナリ</p> <p>○剪定ノ總テヲ九月ニ延引スルモ亦同ジ</p>	<p>○一ヶ年分ノ肥料ヲ一回全量ヲ施スコトハ非常ニ不合理ナコトデアアル</p> <p>○今期ノ施肥ヲ基準トシテ次年ニ亘ル一ヶ年間ノ施肥量及各期ノ分量ヲ豫定ス可シ</p>

七	
中	下
剪定 芽掻キ	收 穫
敷 藁	肥 穫
<p>○本年特ニ結果多ク樹勢衰へ且ツ明年ノ凶作ヲ豫想スルトキハ前記割合ヲ各要素共一割増シトス</p> <p>○施肥ヲ終レハ全園ニ敷藁ヲナス</p> <p>○施肥終レハ直チニ剪定芽掻キ作業ヲ始ム</p> <p>○今期ハ結果枝ノ剪定ト芽掻キヲ行ヒ強度ノ剪定ハ九月ニ行フ可シ</p>	<p>○田中種ノ收穫</p> <p>○田中種ノ收穫</p> <p>○早生種ニアリテハ前月下旬ヨリ施肥ヲ始ム</p> <p>○各要素共速効性ノモノタルコト</p> <p>○今期ノ施用量ハ左ノ標準ニ依ル</p> <p>一ヶ年分 窒素量ノ二割 全加里ノ三割</p> <p>○本年特ニ結果多ク樹勢衰へ且ツ明年ノ凶作ヲ豫想スルトキハ前記割合ヲ各要素共一割増シトス</p> <p>○施肥ヲ終レハ全園ニ敷藁ヲナス</p> <p>○施肥終レハ直チニ剪定芽掻キ作業ヲ始ム</p> <p>○今期ハ結果枝ノ剪定ト芽掻キヲ行ヒ強度ノ剪定ハ九月ニ行フ可シ</p>
<p>○採果痕ヨリ發生スルモノヲ放任セハ新梢過多トナリ良結果得難シ</p> <p>○採果痕ヨリ生ゼル新梢ニ直接着花枝ヲ生ズルコトアルモ其ノ率少ク且ツ良果ヲ生ゼズ</p> <p>○採果痕ヨリ優良ナル發育枝ヲ生ゼシメ之レヨリ次年着花枝ヲ發生セシムル様心懸ケルコト</p> <p>○芽掻キハ發生ノ初期ニ行フベシ</p> <p>○強勢ナル枝ヨリ生セル新梢ハ二本殘シトス</p> <p>○剪定、芽掻キヲ本月一回行フノミニテハ枇杷ノ性質上有害無効ナリ</p> <p>○剪定ノ總テヲ九月ニ延引スルモ亦同ジ</p>	<p>○各品種共收穫ヲ終レハ可成早ク施肥ヲ始メ遅クモ今月上旬中ニ完了スルヲ要ス</p> <p>○本年凶作ニシテ結果量少ク樹勢旺盛ナルモノニテハ今期ノ施肥ヲ必要トセズ</p> <p>○幼木ハ特ニ今回ノ施肥ヲ必要トセザルモ生育不良ノモノハ液肥施用ノコト</p> <p>○今期過量ノ施肥ヲ行フ時ハ着果枝痕ヨリノ夏枝ノ發生多キモ春枝ノ徒長ヲ促シ優良着花枝ノ減少ヲ來ス</p> <p>○花芽分化前即チ七月ニ強度ノ剪定ハ差控ヘルコト</p> <p>○採果痕ヨリ新梢ノ發生セザル前ニ剪定ニ着手スルコト</p>
<p>○一ヶ年分ノ肥料ヲ一回全量ヲ施スコトハ非常ニ不合理ナコトデアアル</p> <p>○今期ノ施肥ヲ基準トシテ次年ニ亘ル一ヶ年間ノ施肥量及各期ノ分量ヲ豫定ス可シ</p>	<p>○一ヶ年分ノ肥料ヲ一回全量ヲ施スコトハ非常ニ不合理ナコトデアアル</p> <p>○今期ノ施肥ヲ基準トシテ次年ニ亘ル一ヶ年間ノ施肥量及各期ノ分量ヲ豫定ス可シ</p>

中

整枝剪定

○枝ノ成長休止早キモノハ花蕾ノ發生ヲ見ルニ至レバ剪定ニ着手ス

○整枝法(二段圓頭形仕立)

1 第一年目、二尺位ノ高サニ於テ第一段主枝三本乃至五本ヲ輪狀ニ殘ス

2 第二年目、第二段ヲ形成ス、第一段トノ距離ハ二尺内外トス

3 第三年目、第三段ヲ形成ス、一段及殘シ他ヲ除ク

4 四年目以後二三年間ハ同様ノ方法ニテ段數ヲソノマ、増加セシム毎年主枝ノ處理ハ前ニ同ジ

○強度ノ剪定ヲ花蕾ノ着生定マラザル前ニ行フ可カラズ

○寒冷期ニ強剪定スルモ亦不可ナリ

○母幹ノ長サハ二尺以下ナラザルコト

○主幹ヲ摘心ス可カラズ

○主枝、本幹共ニ年内ニ於テ一尺以上ニ伸長セシムルヲ要ス

○各主枝ノ勢力均等ヲ計ル可シ

○特ニ強キ主枝ハ誘引又ハ剪定ス

○段數少キ偏重仕立テハ良果ヲ生ズルモ全收量少シ

四五

ロ、良シ
米糠、良質ノ果ヲ生ズルモ使用ニ當リテハ豫メ堆肥中ニ混入シテ用フ

ハ、過燐酸石灰、速効用トシテ用フ

3、加里肥料

イ、木灰、品質ヲ向上セシム

ロ、硫酸加里、速効用トシテ用フ

○秋季肥料ヲ餘リニ遅ク施ストキハ幼果ノ凍害大トナル

2、七月又ハ三月施肥セザル場合
一ヶ年分窒素ノ六―七割
全 全 全 全
加里ノ六―七割

○今期肥料ハ遲効性ノモノヲ主体トス

○開花前ニ施肥ヲ完了スルヲ要ス

○肥料ノ種類ニ付テハ次ノ各項ニ留意ス可シ

1、窒素質肥料

イ、堆肥、特ニ重要ニシテ今期ノ大半ヲ占ム可シ

ロ、魚肥、批杷ニハ欠ク可カラザルモノナリ品質ノ向上、結果力増大ニ効アリ

ハ、大豆粕、過量ニ用フルトキハ品質ヲ低下ス。幼木ニハ生育ヲ旺盛ナラシム

シム

老木ニモ亦可ナリ、但シ燐酸分、加里分ノ肥料或ハ石灰ノ併用ヲ要ス

2、燐酸肥料

イ、骨粉、批杷肥料特ニ今期ノ肥料ニ

○施肥分量一例(十五年生反當)

四四

種	三月	七月	九月
籾	七、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
安	四、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
木	一、五〇	一、五〇	一、五〇
菜	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
過	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
磷	二、〇〇	四、〇〇	三、〇〇
酸	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
加	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
里	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
肥	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
豆	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
粕	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇

下

- 5、五、六段ノ主枝ヲ形成シタル後中心主幹ヲ最上段ト共ニ次位階段主枝ノ分岐点ニテ剪除ス
- 6、以後二三年間毎年一段置キニ主枝ノ段數ヲ減却シ三仕立トス
- 7、以後ノ主枝剪定ハ次ノ標準ニヨル可シ
- 主枝剪定法
 - 1、同一段ノ主枝ハ可成均一ノ長サニ剪定スルコト
 - 2、上段主枝ハ下段主枝ヨリ常ニ短カク剪定ス可シ
 - 3、同一段ニテ長サ差異アル主枝ハ強枝ヲ短カク弱枝ヲ長ク剪定ス
 - 4、主枝ノ剪定ハ常ニ外向キ側枝ノ分岐点ニテ剪ル可シ
- 着花枝ノ剪定
 - 1、短果枝(中心枝)ハ全部殘ス
 - 2、長果枝(側枝)ハ全數ノ少クトモ二、三割ヲ殘シ他ハ除去又ハ二、三芽ニ短剪ス

- 主幹ノ先端止メヲ急グ可カラズ
- 主枝段數ノ減却ヲ二、三年間ニ亙リ漸次行ハザレバ初期ノ收量少ク主枝直立シ樹形亂ル
- 段數ノ減却ハ普通下ヨリ奇數段ヲ殘ス
- 樹ノ高サハ栽培距離ノ七割ヲ標準トス
- 主枝ノ剪定ヲ毎年行ハザレバ結果部上昇シ不利不便トナル
- 側枝密接ニ過ギレバ主枝ノ減數、更新モ常ニ心懸ク可キデアル
- 樹形樹高ノ完成後ハ毎年大休同一ノ長サニ主枝剪定ヲ行フベシ
- 長果枝ノ果實ハ品質劣ル
- 長果枝ハ果實ノ成熟遅キヲ以テ早期出荷ヲ目的トスルトキハ除去スルモ可ナリ
- 長果枝ハ開花期遅ク寒害ヲ受クルコト少キ故良質ナラザルモ安全性大ナリ
- 長果枝ノ間引ハ一個所ヨリ一本ヲ殘ス

四六

月一十月二十	月 十	月																																								
	上																																									
紙袋張リ 園ノ清潔 決算	摘花																																									
<ul style="list-style-type: none"> ○明年ノ紙袋ハ農閑ヲ利用シテ作ル ○晩秋ヨリ冬季ノ間ニ園内ノ清掃ヲ行フ ○今年ノ成績ヲ省テ明年ノ事業計劃ヲ考ル 	<ul style="list-style-type: none"> ○剪定ヲ合理的ニ施行セバ摘花ハ特ニ必要トセザルモ良果ノ生産ニハ効果アリ ○開花直前又ハ直後ニ於テ花穂ノ上部三分位ヲ剪去ス 	<ul style="list-style-type: none"> 3、殘ス可キ結果枝ノ全數ハ全段數ノ六割ヲ超エザルコト ○發育枝ノ剪定 <ol style="list-style-type: none"> 1、着果枝ト大休同數ノ發育枝ヲ殘シ他ヲ除去ス 2、剪除ス可キ發育枝ハ春枝以外ノモノトス 3、發育枝少キトキハ全數ノ二、三割ハ二、三芽ニ短剪シ置クコト 4、本年又ハ前年ノ結果枝ヨリ生ゼル發育枝ハ殘ス 																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ○花穂ノ下位ニアル花ハ結果早ク良果ヲ生ズルモ初春ノ寒氣強ケレバ被害多シ ○長果枝ノ摘花ハ特ニ有効ナリ 	<ul style="list-style-type: none"> ○一樹當リ殘スベキ枝數標準(茂木) <table border="1"> <tr> <th>樹齡</th> <th>全枝數</th> <th>發育枝數</th> <th>花枝數</th> <th>短果枝數</th> <th>長果枝數</th> <th>收當收量</th> <th>反當收量</th> </tr> <tr> <td>五</td> <td>三〇本</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> </tr> <tr> <td>七</td> <td>二〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> </tr> <tr> <td>一〇</td> <td>一〇〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> </tr> <tr> <td>一五</td> <td>一〇〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> <td>一〇〇</td> </tr> </table>	樹齡	全枝數	發育枝數	花枝數	短果枝數	長果枝數	收當收量	反當收量	五	三〇本	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	七	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇	一〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一五	一〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
樹齡	全枝數	發育枝數	花枝數	短果枝數	長果枝數	收當收量	反當收量																																			
五	三〇本	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇																																			
七	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇																																			
一〇	一〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇																																			
一五	一〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇																																			

四七

柑橘栽培月別行事表

月	旬	作	業	方	法	備	考
一	上	計劃樹立諸準備	○一年ノ計ハ年頭ニ於テ定メ万遺漏無キヲ期ス可シ ○昨年ノ成績ヲ考察シ本年經營全体ニ付キ豫定計劃經費豫算ヲ定ム	○肥料藥劑ノ購入又ハ調製機械器具ノ購入又ハ修理等作業實施ニ當リテ狼狽セヌ様準備ヲ完了ス	○青酸ガス燻蒸對一、〇〇〇立方尺用量 青酸加里三〇〇〇瓦 燻蒸時間 硫酸 酸三〇〇〇〇 四〇〇分 水 九〇〇〇〇 cccc	○技術ガ如何ニ優レテモ經營法ノ拙劣ナルハ勞多クシテ益少シ ○經營ノ組織勞力ノ分配肥料ノ用法等ハ勿論販賣ニ至ルマデ合理的經濟的計劃ヲ立テル	○青酸ガス燻蒸注意 1、樹ノ容積、藥劑及時間ノ計量ハ正確ヲ期ス可シ 2、人畜ニ毒害ナキ様絕對注意ス可シ 3、雨露及雪アル時ヲ避クベシ 4、ガソリン發火器ニ先ヅ水ヲ入レ之レニ硫酸ヲ加シ青酸加里ハ天幕内ニテ最後ニ投入スベシ 5、殘液ハ人畜、作物ニ害無キ所定ノ場所ニ捨ツルベシ 6、所ニ一般作業及燻蒸後ノ天幕開放ハ風上ヨリ行フベシ
中	中	害蟲驅除	○前項ニ依ル驅除ヲ行ハサル時ハ機械油乳劑二五—二〇倍液撒布(油分二—一、五%)	○天幕ハ綿布製ヲ普通トスルモ特殊ナル紙製幼木ハ紙張り竹籠ニテモ可ナリ	○新藥「カルチット」ヲ使用スルモ可ナリ ○ガス燻蒸ハ特ニ團体共同作業トナス可シ ○機械油乳劑調合量 Cマシン油一升アデカ農藥石鹼四八匁水一升	○貯藏庫ノ排氣ハ氣温低カラザル快晴ノ日ニ充分行フコト ○氣温ノ低キ時期ナル故排氣ノミナラズ室温ノ變化ヲモ防グコトニ注意ス可シ ○傾斜ト度(六尺ニ付一尺差)以上ノ地ハ可成階段トスルヲ可トス ○各階段ノ巾ハ一列植二間半二列植五間ノ割トス ○植穴ハ所定ノ距離ニ掘リ階段畑ニテハ中央ヨリ稍々前方ニ掘ル可シ ○栽植距離ト反當本數 二間半×二間半—一六〇本 二間半×二間半—一五〇本	
下	下	貯藏果手入 栽植準備	○果實ノ水分盛ニ出ヅル時期ナレバ溫度ニ注意スルト共ニ排氣ニ努ム ○果ノ點檢ヲ行ヒ被害果ハ速ニ除去ス ○昨年末ニ完了セザル開墾、整地、穴掘リ等ハ今月中ニ終ルコト ○植付前ノ待肥ハ絕對必要ナル故深サ二尺徑三尺ノ穴ニ次ノ肥料ヲ投入土ト混和シ置ク 一本當用量 堆肥 一〇〇匁 大豆粕 一〇〇匁 大木灰 一〇〇匁 草木灰 一〇〇匁 過磷酸石灰 一〇〇匁	○前項ニ依ル驅除ヲ行ハサル時ハ機械油乳劑二五—二〇倍液撒布(油分二—一、五%)	○貯藏庫ノ排氣ハ氣温低カラザル快晴ノ日ニ充分行フコト ○氣温ノ低キ時期ナル故排氣ノミナラズ室温ノ變化ヲモ防グコトニ注意ス可シ ○傾斜ト度(六尺ニ付一尺差)以上ノ地ハ可成階段トスルヲ可トス ○各階段ノ巾ハ一列植二間半二列植五間ノ割トス ○植穴ハ所定ノ距離ニ掘リ階段畑ニテハ中央ヨリ稍々前方ニ掘ル可シ ○栽植距離ト反當本數 二間半×二間半—一六〇本 二間半×二間半—一五〇本		

上	中	下
害蟲驅除	藥劑撒布	整枝剪定
○前月未了ノ藥劑撒布又ハガス燻蒸ハ本旬迄ニ終了ノコト	○ダニ、瘡痂病等ノ防除ニ石灰硫黃合劑ニ四度液撒布	○若木ノ整枝剪定法大要次ノ如シ 1、主枝ハ地上ニ一、五尺ノ所ヨリ三 —四本分岐セシム 2、主枝ハ四五度間隔均等盃狀ニ開キ 支柱ヲ立テ誘引結付ス 3、主枝ノ先端ハ必ず剪定シ新梢ヲ強ク 萌芽セシメ結果セシメザルコト 4、主枝先端部ヨリ生ゼル新梢ハ一、二 本宛主枝トシテ處理シ他ノ夏秋梢ハ除 去又ハ次年種枝ヲ生ズル様剪定ス 5、主枝ノ誘引ハ強枝ヲ強ク行ヒ弱枝ハ 之レヲ立テ成長ヲ助長ス 6、直上、徒長枝ハ基部ヨリ除去スルヲ 原則トス
○機械油乳劑撒布ハ月始メニ終リ其以後ハ樹ノ生理ヲ害スル事多キ故注意スベシ	○濃厚石灰硫黃合劑(ボーメー三二—三三)度ヲ水ニテ二〇倍スレバボーメー二度九〇倍スレバ四度トナル	○柑橘ノ若木ニ對シ剪定整枝ハ不要有害デアルト考ヘルノハ重大ナル誤リデア ○幼木ノ剪定整枝ハ樹冠ノ成長擴大ヲ促進スルノミナラズ結局樹齡ノ延長、收量ノ增加品質ノ向上ヲ來スノ根源ナリ ○樹齡四—五年迄ハ勿論其ノ後モ樹ノ成長擴大ヲ必要トスル期間ハ樹冠ノ外縁部ハ專ラ成長ニ當ラシメ中央内部ニノミ結果セシムル様留意ヲ要ス ○植付後二—三年間ハ強剪定ヲ慎ミ主枝ノ誘引ト結果ヲ防止スル程度トス ○主枝ノ剪定ハ毎年其ノ強弱ニ應ジ前年成長量ノ二分ノ一—三分ノ一ヲ剪去ス ○主枝剪定外芽又ハ側芽ニテ行フコト

上	中	下
害蟲驅除	藥劑撒布	整枝剪定
○前月未了ノ藥劑撒布又ハガス燻蒸ハ本旬迄ニ終了ノコト	○ダニ、瘡痂病等ノ防除ニ石灰硫黃合劑ニ四度液撒布	○若木ノ整枝剪定法大要次ノ如シ 1、主枝ハ地上ニ一、五尺ノ所ヨリ三 —四本分岐セシム 2、主枝ハ四五度間隔均等盃狀ニ開キ 支柱ヲ立テ誘引結付ス 3、主枝ノ先端ハ必ず剪定シ新梢ヲ強ク 萌芽セシメ結果セシメザルコト 4、主枝先端部ヨリ生ゼル新梢ハ一、二 本宛主枝トシテ處理シ他ノ夏秋梢ハ除 去又ハ次年種枝ヲ生ズル様剪定ス 5、主枝ノ誘引ハ強枝ヲ強ク行ヒ弱枝ハ 之レヲ立テ成長ヲ助長ス 6、直上、徒長枝ハ基部ヨリ除去スルヲ 原則トス
○機械油乳劑撒布ハ月始メニ終リ其以後ハ樹ノ生理ヲ害スル事多キ故注意スベシ	○濃厚石灰硫黃合劑(ボーメー三二—三三)度ヲ水ニテ二〇倍スレバボーメー二度九〇倍スレバ四度トナル	○柑橘ノ若木ニ對シ剪定整枝ハ不要有害デアルト考ヘルノハ重大ナル誤リデア ○幼木ノ剪定整枝ハ樹冠ノ成長擴大ヲ促進スルノミナラズ結局樹齡ノ延長、收量ノ增加品質ノ向上ヲ來スノ根源ナリ ○樹齡四—五年迄ハ勿論其ノ後モ樹ノ成長擴大ヲ必要トスル期間ハ樹冠ノ外縁部ハ專ラ成長ニ當ラシメ中央内部ニノミ結果セシムル様留意ヲ要ス ○植付後二—三年間ハ強剪定ヲ慎ミ主枝ノ誘引ト結果ヲ防止スル程度トス ○主枝ノ剪定ハ毎年其ノ強弱ニ應ジ前年成長量ノ二分ノ一—三分ノ一ヲ剪去ス ○主枝剪定外芽又ハ側芽ニテ行フコト

○成木ノ剪定法一般

1、結果枝ノ剪定
前年結果セル枝ハ二—三節ヲ殘シテ短
剪ス

2、結果母枝ノ剪定
春梢

一般ニ優良ナル種枝ナル種枝ナル故存
置スルヲ普通トスルモ
イ、密生スル時ハ間引短剪ヲ行フ
ロ、一尺以上ニモ伸長セルモノハ先端
部一—二寸ヲ剪去
ハ、發育不良ノ弱枝ハ剪去ス

夏秋梢

春梢少キ時ハ充實セル夏梢ヲ種枝トシ
テ存置スルコトアルモ
イ、秋梢ハ必ず剪去ス
ロ、夏梢ハ剪去又ハ短剪ス
ハ、直上セル徒長的ノモノハ基部ヨリ
剪去ス

3、主枝及亞主枝ノ整理剪定
常ニ留意シテ樹型ヲ亂シ生産品質低下

○結果枝ノ剪定ハ收穫ト同時ニ短剪スルモ
差支ナシ

○種枝トシテ最優良ナルモノハ一般ニ四—
五寸乃至七—八寸ネーブルニ—三寸ノ春
梢ナリ

○春梢種枝ノ間引短剪ハ本年結果過多ヲ豫
想スル時ニ行ヒ基部二—三節ニテ剪定ス

○夏秋梢何レモ之レヲ剪去スル場合ハ春
梢又ハ夏梢トノ境ニ存スル節下ニテ剪定
ス可シ

○春梢少キ爲メ夏梢ヲ種枝トシテ利用セン
トスル場合ハ晚秋收果前後ニ其ノ先端部
ヲ剪去スルヲ良シトス

○主枝ハ盃狀形ニ斜生スル勢力配置均等ノ
モノタルヲ要ス

○下垂枝ハ上向斜生枝ニ變更スル様適當ナ
ル剪定ヲ加フベシ

○強大ナル直立主枝ハ成ル可クソノ基部ニ
近ク斜生枝ノ發生ニ努メ而ル後之レヲ除
去ス

ヲ來ス慎アル不要有害ナル枝ノ整理ヲ行フ
 イ、相交又スルモノ
 ロ、直上又ハ下垂スルモノ
 ハ、禿枝

○其ノ他樹型及生産力維持ニ必要ナル剪定
 1、樹型完成後ニ於テハ樹冠ノ各所ニ於テ三十五年生位ノ枝條ヲ其ノ分岐點近ク内部ニ入りテ之レヲ剪去シ空所ヲ作リ以テ風光ノ透射ヲ圖リ新梢ノ發生ヲ促ス

○老木更新剪定
 1、主枝及亞主枝ヲ徑五分以上一寸以内ノ所マデ剪リ戻シ骨格ノ大部分ヲ殘ス
 2、一時ニ樹冠ノ全部ヲ剪去スルコトナク各樹ニ付キ三年計劃ヲ以テ順次更新スルヲ有利トス
 3、剪定セル樹幹ニハ「ホワイトワツシユ」ヲ塗布ス可シ

去ス
 ○オレンチ類ハ樹冠ノ内部ニ良果ヲ生ズル故禿枝ノ剪定ハ注意ヲ要ス
 ○所謂成木トナリテ充分生産能力ヲ發揮スルニ至レバ樹冠ノ不必要ニ膨大スルヲ防ギ且ツ結果面積ノ減少ヲ豫防スル爲メ綠枝剪定ノミナラズ出引的強剪定ヲ必要トス
 ○樹高ハ植付距離ノ八割内外ニテ止ム可シ
 ○強度ノ更新剪定ハ其ノ度強キ程樹形ハ縮少シ新梢ノ發育良好ナルモ結果ニ要スル年數長シ
 ○一時ニ全部ノ更新ヲナサズ二三年ノ期間ヲ以テ行フ場合ハ初年ハ北面西北面次ニ西面、西南面最後ニ南面東南面ノ順ニ剪ルベシ
 ○ホワイトワツシユ調製法生石灰七、硫黃華二、鹽一、(石灰一、目ニ付カセイ石灰三十匁加用)ノ割合ニテ之レヲ適量ノ水ニテ糊狀ニス

上	整枝剪定	4、昨年剪リ戻シヲ行ヒタル枝幹ヨリ發生セル新梢ハ密生部ヲ適當ニ間引キ他ハ短剪スルコトナク結果セシムルカ又ハ良好ナル種枝ノ發生スル様弱剪ニ止ム可シ
中	施肥中耕	○前月未了ノモノハ中旬迄ニ完了スルヲ要ス ○未結果ノ幼木ニ對シテハ今期全量ノ五割ヲ基肥トシテ施ス ○成木ニ對シテハ全量ノ三―五割ヲ施ス ○成木ニ於テハ全園肥幼木ニアリテハ樹冠ノ外方ニ輪狀放射狀施肥トス ○肥料ハ土ト混和シタル後覆土ス可シ ○今期ノ施肥ハ二十日前後迄ニ完了スルヲ良シトス
三		○「ネーブルオレンチ」ハ温州蜜柑ヨリ發芽早キヲ以テ剪定ノ時期ヲ遅キニ失セザル様注意ス可シ ○幼木ノ施肥ハ運動性肥料主体ナル時ハ各成分共全量ノ六―七割化學肥料主体ナル時ハ四―五割ニ止ムルヲ良シトス ○春肥ハ空素分ヲ主体トシ磷酸分ノ半量乃至六―七割、加里半量ヲ施スヲ普通トス ○堆肥、綠肥等ノ有機質自給肥料ヲ主体トス可シ ○空素分ハ枝梢ノ成長ヲ促シ果ノ肥大收量ヲ增加スルモ其ノ過量ハ夏秋梢ノ發生多ク果ノ品質ヲ損ズ ○磷酸ハ果ノ甘味ヲ増加シ一般品質ヲ向上

施肥量標準 反當六十本

樹齡	二年	五年	七年	十年	十五年	廿年
窒素	1,100斤	1,100斤	1,000斤	9,000斤	9,000斤	9,000斤
磷酸	250斤	400斤	400斤	4,000斤	4,000斤	4,000斤
加里	1,100斤	1,100斤	1,100斤	5,000斤	5,000斤	5,000斤

五四

下	栽	植
<p>○天候温和ノ日ヲ選ビ根ノ乾燥ヲ絶對ニ防キ所定距離ニ定植ス</p> <p>○根ハ直根、太根ヲ剪定ス</p> <p>○不要ノ枝梢ハ此ノ際剪去ス可シ</p>	<p>○石灰硫黄合劑ボーメー一二度液撒布</p> <p>○冬季防寒ノ爲被覆シタル藁藎等ヲ除去ス</p>	<p>○苗木ノ遠方ヨリ送ラレタルモノハ數時間根ヲ浸水シ充分吸水セシメタル後定植又ハ假植ス可シ</p> <p>○苗木ノ運搬ハ必ず濡藎ニテ包ミ行フ</p> <p>○根ヲ粘土又ハ苔ニテ固メタルモノハ水中</p>

スルモ多量ニ過グレバ食味ヲ損ジ貯藏力減退シ着色ヲ不良ニス

○加里ハ枝梢ノ充實ヲ圖リ果ノ收量及貯藏力ヲ増シ色澤ヲ良好ニスルニ必要ナルモ量多キニ失スレバ生長ヲ抑制シ果汁ノ酸度ヲ高メ隔年結果ノ性ヲ大ニス

○施肥全量及各期ノ分量ハ土質地形品種販賣時期結果量樹勢等ニ依リ各園各樹差異アル可ク各經驗ト研究ニ依リ定ム可シ

○「ダニ」ノ驅除ニ上記藥劑撒布ヲ要ス濃厚石灰硫黄劑(三三三度)ヲ水ニテ四〇—二〇倍スレバ上記ノ濃度トナル

○暖氣加ハルニ及ベバ催芽前ニ被覆物ハ除クヲ要シ其ノ時期ヲ失セザルコト

五	四	月
中	下	中
天牛驅除	藥劑撒布	貯藏果手入
<p>○天牛ノ産卵始マル故ニホワイトワツシュニ塗布</p>	<p>○開花直前ノ病痲病豫防ニ四—五斗式石灰ボルドー液撒布</p>	<p>○温度ノ變化ヲ防ギ温度ノ調節ト被害果ノ除去ニ努ム</p>
<p>○ホワイトワツシュニハ砒酸鉛加用(石灰一貫匁ニ付三十匁)ノコト</p>	<p>○石灰ボルドー液ハ硫酸銅一二〇匁石灰六〇—八〇匁トス</p>	<p>○主枝ノ分岐點タル地上一尺乃至一尺五寸ノ高サニ剪定シ三—四本ノ主枝ヲ養成ス可シ</p> <p>○本幹及主枝ニハ各々支柱ヲ立テ四十五度ニ開ク可シ</p> <p>○植土ノ鎖壓ハ強カラザル様注意シ灌水ニテ土ヲ落付カス様ニス</p> <p>○氣温次第ニ上昇スルニ伴ヒ腐敗歩合増加スルヲ以テ注意シテ管理ス可シ、成結不良ナル時ハ早ク處分スルニ如カズ</p>

五五

○植付ノ深サハ嫁接個所ガ地ニ隱ル、程度トス

○灌水ヲ充分ニシ敷藁ヲ行ヒ支柱ヲ立ツ可シ

○四月上旬迄ニ定植ヲ終了ス可シ

○綠肥ルーピンハ花ノ滿開期ニ引拔クカ刈取リテ糞込ミ又ハ別ニ堆積ス糞込ニ當リテハ反當二〇—三〇貫ノ石灰ヲ施用ス可シ

○全國、根ノ擴ガレル成木園ニ左リテハ本トシテ別ニ施用スルヲ可トス

○綠肥ルーピンハ花ノ滿開期ニ引拔クカ刈取リテ糞込ミ又ハ別ニ堆積ス糞込ニ當リテハ反當二〇—三〇貫ノ石灰ヲ施用ス可シ

○開花直前ノ病痲病豫防ニ四—五斗式石灰ボルドー液撒布

○天牛ノ産卵始マル故ニホワイトワツシュニ塗布

月		六		月
上	下	中	上	下
藥劑撒布	移 植	害蟲驅除	藥劑撒布	藥劑撒布
○松脂合劑二〇—三〇倍液撒布	○天牛ノ驅除前月ニ同ジ ○四—五年生以上ノ相當樹冠ノ擴大セル樹ハ梅雨期中ニ移植スルヲ安全トス	○ルビ一蠟蟲及矢ノ根介殼蟲驅除ニ松脂合劑二十五倍液乃至三十倍液撒布 ○松脂合劑二〇—三〇倍液撒布	○矢ノ根介殼蟲第一回發生期ナル故發生多キ園ニハ松脂合劑二五—三〇倍液撒布 ○石灰硫黃合劑ボーメー〇、五度液撒布 ○落葉病發生ノ園ニハ四斗式石灰ボルドー液撒布	○落花直後石灰ボルドー液撒布前月ニ準ズ ○全花ノ八割程度落下セルヲ見定メテ失期セズ撒布スルヲ要ス
○ルビ一蠟蟲ハ前月ヨリモ本月ニ入りテ幼	○ルビ一蠟蟲ハ幼蟲發生期ナレバソノ初期ヲ逸セズ松脂合劑ヲ撒布ス ○原液調合量松脂一〇〇、勿苛性ソーダ八〇、水一升 ○枝葉多キ樹ノ移植ハ春發芽前ヨリモ今季春梢ノ伸長停止後夏梢萌芽前ニ行フヲ良シトス	○落葉病豫防ニ上記石灰ボルドー液ヲ必要トスルモノハ劑ノ撒布ハ「ダニ」ノ發生ヲ助長スルコト、石灰硫黃合劑及松脂合劑ノ撒布トハ一ヶ月以上ノ隔リアルヲ要スルコトニ注意スベシ	○松脂合劑調合下旬ニ同ジ ○「ダニ」ノ驅除及瘡痂豫防ニ濃厚石灰硫黃合劑ノ八〇倍液ヲ撒布ス ○落葉病豫防ニ上記石灰ボルドー液ヲ必要トスルモノハ劑ノ撒布ハ「ダニ」ノ發生ヲ助長スルコト、石灰硫黃合劑及松脂合劑ノ撒布トハ一ヶ月以上ノ隔リアルヲ要スルコトニ注意スベシ	

五六

月		七	
下	中	上	下
害蟲驅除	藥劑撒布	追 肥	敷 草
○ルビ一蠟蟲驅除ニ松脂合劑二〇—二五倍液撒布	○「ダニ」ノ發生ハ梅雨明ケ後一層激甚トナル故石灰硫黃合劑ボーメー〇、三度ヲ撒布ス	○幼木及結果多キ園ニ追肥ス幼木ハ全量ノ三—五割成木ハ加里三割窒素及磷酸ハ一—三割程度トス ○「ダニ」ノ發生ハ梅雨明ケ後一層激甚トナル故石灰硫黃合劑ボーメー〇、三度ヲ撒布ス	○硫酸ニコチン八〇〇—一、〇〇〇倍液ヲ五日毎ニ撒布ス ○旱害防除ニ敷草ヲ充分ニ行フベシ
○今期以後ハルビ一蠟蟲ヲ殺滅スルコト困難ナリ失期セザルヲ要ス一般注意上旬ニ同ジ	○松脂合劑ト二十日以上ヲ隔テ、撒布スルヲ要ス	○夏季ノ追肥ハ斷根セザル様注意ス可シ ○成木ニ對シテ今季ノ窒素過多ハ不可ナリ ○濃厚石灰硫黃合劑ノ一四〇—一五〇倍ニテ上記ノ濃度トナル	○梅雨明ケ後ノ早天ニ於ケル撒藥ハ被害アルヲ以テ曇天又ハ朝夕ニ行フベシ ○夏梢ノ伸長ト同時ニ「ハムグリ蛾」ノ幼蟲發生シ被害アルヲ以テ特ニ幼木ニハ硫酸ニコチン液（水一斗ニ付硫酸ニコチン七匁—五八匁石鹼二〇匁加用）ヲ適用ス可シ

五七

十	月	九	月	八
上	下	中	上	下中上
藥劑撒布	綠肥播種	幼木追肥	藥劑撒布	藥劑撒布
○石灰硫黃合劑○、五—一度液撒布	○綠肥「ルービン」ヲ間作綠肥トシテ播種ス 肥料トシテ反當過燐酸石灰五貫草木灰七貫ヲ施セバ生育良好ナリ	○年内ニ充分枝梢ノ伸長ノ充實ヲ圖ル爲メニハ速効性肥料ヲ年全量ノ二割位施ス	○石灰硫黃合劑及硫酸ニコチン液撒布前月ニ同ジ	○「ダニ」驅除ニ石灰硫黃合劑撒布ボーメ○ 三度トス ○ハムグリ蛾驅除前月ニ同ジ ○ネーブルオレンヂ潰瘍病發生スル園ニハ三—四斗式石灰ボルドー液撒布
○撒藥ハ前月ニ準ジ本月中一—二回行フ	○幼木ニ於テモ根元ヨリ三尺ヲ隔テ、下種ス ○播種量反當二—三升トス ○始メテ作付スル園地ニテハ根瘤菌ヲ接種スルヲ要ス ○ルービンハ速作スルモ可ナリ	○今季幼木ノ追肥ハ春、夏梢ノ充實ヲ目的トスル爲メ加里ヲ重視ス窒素過多ナレバ秋梢ノ發生ヲ促ス	○藥劑撒布ハ總テ早天ヲ避ケテ行フヲ要ス ○石灰硫黃合劑、石灰ボルドー液撒布ハ二十日以上ノ隔リヲ置ク可シ ○潰瘍病豫防石灰ボルドー液ハ石灰半量トス	五八

一	十	月
下中	上	下中
採收始メ	藥劑撒布 諸準備 秋季植付	收穫準備 藥劑撒布 早生温州採收
○溫暖多雨ナル時ハ採收直前又ハ直後ニ施肥スルヲ安全トス	○石灰硫黃合劑ボーメ○、五—一度液撒布 ○普通温州ノ充分着色セルモノヨリ採取ヲ始ム ○成木ニ對シテノ秋季肥料ハ全量ノ二—五割位ヲ施ス	○早生温州ハ本月中旬ヨリ採收スルヲ以テ諸準備ヲナス ○前旬ニ同ジ ○早生温州ノ着色セルモノヨリ漸次採收出荷ス
○明年不作ヲ豫想セバ明年施肥ス可キ全量ノ四—六割豊作ヲ豫想セバ二—三割内外	○秋季肥料ハ翌春ノ着花ヲ良好ニスルモ今期多量ノ施肥ハ慎ム可シ	○早生ノ採收ハ着色ト食味本位ニテ採收シ市場ノ價格ヲ注意シ一時ニ多量ノ出荷ハ控ヘル可キデアル
五九	○貯藏果ハ早採リセザルコト ○貯藏庫ノ消毒ハフオルマリン消毒ヲ普通トス貯藏箱ハ數日間陽乾ス可シ フオルマリソ三十五%一封度ヲ水八升乃至一斗ニテ稀釋ス 六〇〇平方尺ニ一升ノ割ニテ撒布シ一晝夜密閉ス	○貯藏庫ノ消毒ハフオルマリン消毒ヲ普通トス貯藏箱ハ數日間陽乾ス可シ フオルマリソ三十五%一封度ヲ水八升乃至一斗ニテ稀釋ス 六〇〇平方尺ニ一升ノ割ニテ撒布シ一晝夜密閉ス

二		十	月
		中 上	
貯		探	施 中 施 秋 季 剪 定 耕 肥
藏		收	
<ul style="list-style-type: none"> ○採果ハ總テ丁寧ニ行ヒ果梗ハ出來ル丈短カク剪リ損傷セザル様注意ス可シ ○成ル可ク中旬迄採收ヲ終了ス可シ ○貯藏果ハ樹冠ノ外面ニ結果シ熟度適當ナル無傷ノモノヲ選ブ可シ ○果皮果肉ノ緊密ナル果實ヲ選ブ可シ ○入庫前ニ放冷シ且ツ水分ヲ減ジテ彈力ヲ生ゼシメタル二―三日後ニ行フ 		<ul style="list-style-type: none"> ○採果ハ總テ丁寧ニ行ヒ果梗ハ出來ル丈短カク剪リ損傷セザル様注意ス可シ ○成ル可ク中旬迄採收ヲ終了ス可シ ○貯藏果ハ樹冠ノ外面ニ結果シ熟度適當ナル無傷ノモノヲ選ブ可シ ○果皮果肉ノ緊密ナル果實ヲ選ブ可シ ○入庫前ニ放冷シ且ツ水分ヲ減ジテ彈力ヲ生ゼシメタル二―三日後ニ行フ 	<ul style="list-style-type: none"> ○採果直前又直後ニ中耕シ敷草ヲ敷込ム ○成木ニ於テ夏秋梢ノ剪定ヲ行フコトアリ
<ul style="list-style-type: none"> ○採果ハ必ず手袋ヲハメ行ヒ果梗ハ二度切リヲ良シトス ○採收ノ當時貯藏果ト即時販賣果トヲ區別スルヲ良シトス ○採收遅延セバ果ノ品質損ジ且ツ明年ノ結果モ不良ナル影響アリ ○入庫後一―二週間ハ雨天ヲ除キ晴天ノ日ハ窓ヲ開放シ水分ノ蒸散ヲ圖ルベシ ○密閉スルモ果ノ發汗ヲ見ザルニ至レバ通氣ヲ制限シテ同時ニ氣温ヲ調節ス冬季ハ室温五―一〇度濕度七〇―八〇%ヲ適當トス 		<ul style="list-style-type: none"> ○採果ハ必ず手袋ヲハメ行ヒ果梗ハ二度切リヲ良シトス ○採收ノ當時貯藏果ト即時販賣果トヲ區別スルヲ良シトス ○採收遅延セバ果ノ品質損ジ且ツ明年ノ結果モ不良ナル影響アリ ○入庫後一―二週間ハ雨天ヲ除キ晴天ノ日ハ窓ヲ開放シ水分ノ蒸散ヲ圖ルベシ ○密閉スルモ果ノ發汗ヲ見ザルニ至レバ通氣ヲ制限シテ同時ニ氣温ヲ調節ス冬季ハ室温五―一〇度濕度七〇―八〇%ヲ適當トス 	<ul style="list-style-type: none"> ○止ム可シ ○施肥期早キニ失スレバ品質ヲ損ズル故着色充分ナルニ至リテ行フ可シ ○春梢ノ結果母枝少ク夏秋梢多キ時ハ秋梢ノ剪去夏梢ノ剪定ヲ行ヒ夏枝ノ充實ヲ圖ル

六〇

月	旬	作 業	方 法	備 考
下	防 寒	殘業整理	<ul style="list-style-type: none"> ○幼木ハ稻藁ニテ經ク被覆シ成木ノ西北風強キ園ニテハ前ノ方向ニ苴藁等ヲ張ル ○本年ノ業務總テノ結末ヲ付ケ整理ス 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼木ヲ厚ク藁藁等ニテ密覆スルハ却ツテ害アリ ○成木ハ成ル可ク包マザルヲ良シトスルモ毎年冬季落葉スル園ニテハ包被スル要アリ但シ南東面ハ包マザルヲ可トス

柿栽培月別行事表

月	旬	作 業	方 法	備 考
中	上	藥劑撒布	<ul style="list-style-type: none"> ○ルビ―蠟蝨角蠟蝨驅除ノ爲メ松脂合劑一〇倍液又ハ機械油乳劑一〇―一五倍液撒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○松脂合劑原液調合量 ○松脂一〇〇匁苛性曹達一〇〇匁水一升 ○機械油乳劑調合量 ○マシン油一升アデカ農藝石鹼五〇匁水一升
中	中	耕	<ul style="list-style-type: none"> ○全面ヲ打チ起ス ○根元ハ淺ク樹冠ノ外方ハ次第ニ深ク耕起ス 	<ul style="list-style-type: none"> ○石灰ヲ使用スル場合ハ反當二〇―三〇貫ヲ全面ニ撒布シタル後中耕ス

六一

下 其ノ他
○上中旬ニ未了ノ作業ヲ終ルコト
○園ノ清潔、肥料藥劑ノ準備
○本月ニ於テ一ヶ年間ノ計劃ヲ定メ諸準備ヲ行フ

中上 整枝
○歪狀自然形ニシテ樹高ハ栽植距離ノ八割内外ニ止マル様心掛ケ主枝ノ角度ハ四五
○主枝ノ先端中心枝ハ切戻スヲ原則トシ母枝トシテ殘サザルコト
○其ノ他支枝又ハ誘引ノ繩、針金ノ取替ヘ等補強作業ヲ行フ
○結果枝ノ剪定
○前年ノ結果セル枝ハ短剪又ハ分岐点基部迄切戻ス
○母枝少キ時ハ果芽ノ良好ナル枝ヲ殘ス
○結果母枝
○隔年結果防止上普通ハ總數ノ三分ノ一位ヲ短剪ス
○徒長枝下垂枝直立枝
○剪去又ハ適當ニ剪定シ母枝ノ形成ヲ圖ル

剪定
○結果母枝ノ殘置ス可キ優良ナルモノハ普通五寸一尺デアル一尺以上ノモノハ果芽ニ二三ヲ殘セバ先端ヲ切り棄テ、差支ヘナイ又二三寸ノ弱枝ハ剪去ス
○結果枝ノ間引ハ直立枝中心枝ヲ第一ニ行クヒ其ノ他密接枝ヲ間引キ何レモ強枝ハ弱ク弱枝ハ強ク剪定シ優良ナル母枝ノ發生ヲ計ル

○母幹ノ長サ地上一、五尺一、二、〇尺トシ最初ノ主枝ハ四本トス
○第二年ヨリハ各々主枝ノ強弱ニ應ジテ三分ノ一、二分ノ一ヲ剪去シ樹冠ノ内部ニモ優良ナル結果ヲ生ズル様留意シ主枝ノ總數ハ一、二、一、八本トス
○結果枝ノ剪定ハ春季優良母枝ノ發生スル様努ムルタメ一般ニ弱枝ハ基部迄切戻シ強枝ハ先端ヲ剪リテ盲芽ノ發動ヲ促ス

○結果母枝ノ殘置ス可キ優良ナルモノハ普通五寸一尺デアル一尺以上ノモノハ果芽ニ二三ヲ殘セバ先端ヲ切り棄テ、差支ヘナイ又二三寸ノ弱枝ハ剪去ス
○結果枝ノ間引ハ直立枝中心枝ヲ第一ニ行クヒ其ノ他密接枝ヲ間引キ何レモ強枝ハ弱ク弱枝ハ強ク剪定シ優良ナル母枝ノ發生ヲ計ル

○二段枝ハ節ノ下部ニテ剪定ス
○今期ノ肥料ハ通効性ノモノヲ主トス
○堆厩肥ノ増施ハ若木ハ枝ノ生長良ク成木ハ品質收量ヲ増進ス
○加里ノ適量ハ果肉ノ充實品質、脱澱、貯藏ニ好果ヲ示ス
○結果多量ヲ豫想スル年ハ元肥ヲ五―六トシ追肥ヲ増ス

○若齡樹ハ輪肥トシ成木ハ全面施肥ヲ良ス
○濃厚石灰硫黄合劑ハ七―一〇倍ノ水ニテ稀釋スレバ上記ノ濃度トナル
○植付肥料ハ前年ノ秋冬カラ待チ肥スルヲ

○岩疽病豫防及介殼蟲驅除ニ石灰硫黄合劑四―六度液撒布
○春季植付ノモノハ今期ニ定植ス

○堆厩肥ヲ主体トスル全量ノ七―八割ヲ今期ニ元肥トシテ施シ殘餘二―三割ハ追肥トス
○標準量
樹齡 一年 二年 三年 五年 七年 十年
三素 一年 二年 三年 五年 七年 十年
窒素 0.200, 0.100, 0.100, 0.100, 0.100, 0.100
磷酸 0.000, 0.000, 0.000, 0.000, 0.000, 0.000
加里 0.000, 0.000, 0.000, 0.000, 0.000, 0.000

接穗採取貯藏
○良果ヲ生産スル母枝カラ剪定セル結果母枝ヲ集メテ二―三尺砂中ニ倒ニ立テテ埋ム

月
中上 下
藥劑撒布
○若齡樹ハ輪肥トシ成木ハ全面施肥ヲ良ス
○濃厚石灰硫黄合劑ハ七―一〇倍ノ水ニテ稀釋スレバ上記ノ濃度トナル
○植付肥料ハ前年ノ秋冬カラ待チ肥スルヲ

六三

三	月	四	五	月	七
栽	下	上	中	下	上
○栽植距離 三間×三間—反當三十三本 二間半×三間—反當四十八本 一五尺×一五尺—反當四十八本	○栽植本數ハ反當四十本ヲ適當トス	○前月ヨリ引續キ行フ ○三斗式石灰ボルドー液撒布	○炭疽病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス ○落葉病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス	○肥培管理充分ナレバ自然落花少キ故結果過多ノ枝ハ摘果ス ○落果多キ園ハ摘果セザルヲ良シトス	○炭疽病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス ○落葉病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス
○最良トス待チ肥無キ場合ハ腐熟堆肥ヲ用ヒ濃厚肥料ヲ施サザルヲ安全トス ○植付前後共ニ根ノ乾燥ヲ絶對ニ防止スル事	○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○葉裏及蒂部ニ撒藥スルヲ必要トス	○摘果ハ一結果枝一個ヲ標準トシ嚮向キ下向キノモノヲ殘シ強勢ナル上向果ヲ除去ス	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○黒星病、炭疽病豫防ニ二斗五升式ボルドー液撒布	○追肥ハ落花後中旬迄ニ成ル可ク液肥トシテ施ス	○稀釋液一斗ニ付農藝石鹼五匁ヲ加用スレ	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○深ク圃地ヲ耕起スルハ慎シム可シ	○松脂合劑調合量 松脂一〇〇匁苛性ソーダ四〇匁水一升	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○摘果多キ園ハ摘果セザルヲ良シトス	○松脂合劑調合量 松脂一〇〇匁苛性ソーダ四〇匁水一升	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○摘果多キ園ハ摘果セザルヲ良シトス	○松脂合劑調合量 松脂一〇〇匁苛性ソーダ四〇匁水一升	○元肥殘餘分ヲ施用ス

六四

三	月	四	五	月	七
栽	下	上	中	下	上
○栽植距離 三間×三間—反當三十三本 二間半×三間—反當四十八本 一五尺×一五尺—反當四十八本	○栽植本數ハ反當四十本ヲ適當トス	○前月ヨリ引續キ行フ ○三斗式石灰ボルドー液撒布	○炭疽病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス ○落葉病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス	○肥培管理充分ナレバ自然落花少キ故結果過多ノ枝ハ摘果ス ○落果多キ園ハ摘果セザルヲ良シトス	○炭疽病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス ○落葉病落葉病防除ニ一石式石灰ボルドー液ヲ本月下旬迄ニ二—三回撒布ス
○最良トス待チ肥無キ場合ハ腐熟堆肥ヲ用ヒ濃厚肥料ヲ施サザルヲ安全トス ○植付前後共ニ根ノ乾燥ヲ絶對ニ防止スル事	○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○葉裏及蒂部ニ撒藥スルヲ必要トス	○摘果ハ一結果枝一個ヲ標準トシ嚮向キ下向キノモノヲ殘シ強勢ナル上向果ヲ除去ス	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○追肥ハ落花後中旬迄ニ成ル可ク液肥トシテ施ス	○稀釋液一斗ニ付農藝石鹼五匁ヲ加用スレ	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○深ク圃地ヲ耕起スルハ慎シム可シ	○松脂合劑調合量 松脂一〇〇匁苛性ソーダ四〇匁水一升	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○摘果多キ園ハ摘果セザルヲ良シトス	○松脂合劑調合量 松脂一〇〇匁苛性ソーダ四〇匁水一升	○元肥殘餘分ヲ施用ス
○接木ハ必ず据接トシ樹液ノ上昇開始セザルモトハ不可ナリ	○黒星病、炭疽病豫防ニ前月撒藥セザルモノハ發芽前ニ終了スルコト	○樹液上昇ヲ始ムレバ接木ヲ始ム	○摘果多キ園ハ摘果セザルヲ良シトス	○松脂合劑調合量 松脂一〇〇匁苛性ソーダ四〇匁水一升	○元肥殘餘分ヲ施用ス

六五

月 九		月 八		月	
中	上	中	上	下	中
藥劑撒布	追肥	藥劑撒布	藥劑撒布	藥劑撒布	敷藥
○炭疽病ノ發生スル園ニテハ前月同様ボルドー液ヲ撒布ス(二回)	○結果多ク果實ノ肥大不良ノ園ニ追肥ス	○蒞蟲炭疽病防除ニ砒酸鉛加用石灰ボルドー液撒布六月ニ同ジ(各旬一回宛)	○蒞蟲炭疽病防除ニ石灰ボルドー液撒布前月ニ同ジ	○蒞蟲驅除ノタメドリゲン乳劑撒布ヲ八月中旬マデニ回撒布	○乾燥防止ノタメ莖稈、刈草等ヲ敷ク
	○今期ノ追肥ヲ行フ場合ニハ全成分量ノ一割程度迄トシ月ノ始メニ施スコト	○蒞蟲幼蟲ノ第二回發生期ナル故袋掛ケヲ行ハザルモノハ撒藥ノ要アリ	○蒞蟲幼蟲ノ第二回發生期ナル故袋掛ケヲ行ハザルモノハ撒藥ノ要アリ	○松脂合劑ノ撒布ト二週間以上ノ期間ヲ離スヲ安全トス	ハ効果大ナリ ○撒藥ハ早天ヲ避ケ夕刻又ハ曇天ニ行フコト ○中旬ニ入ルト殺蟲ノ効ヲ減ズル故成可早ク行フヲ要ス

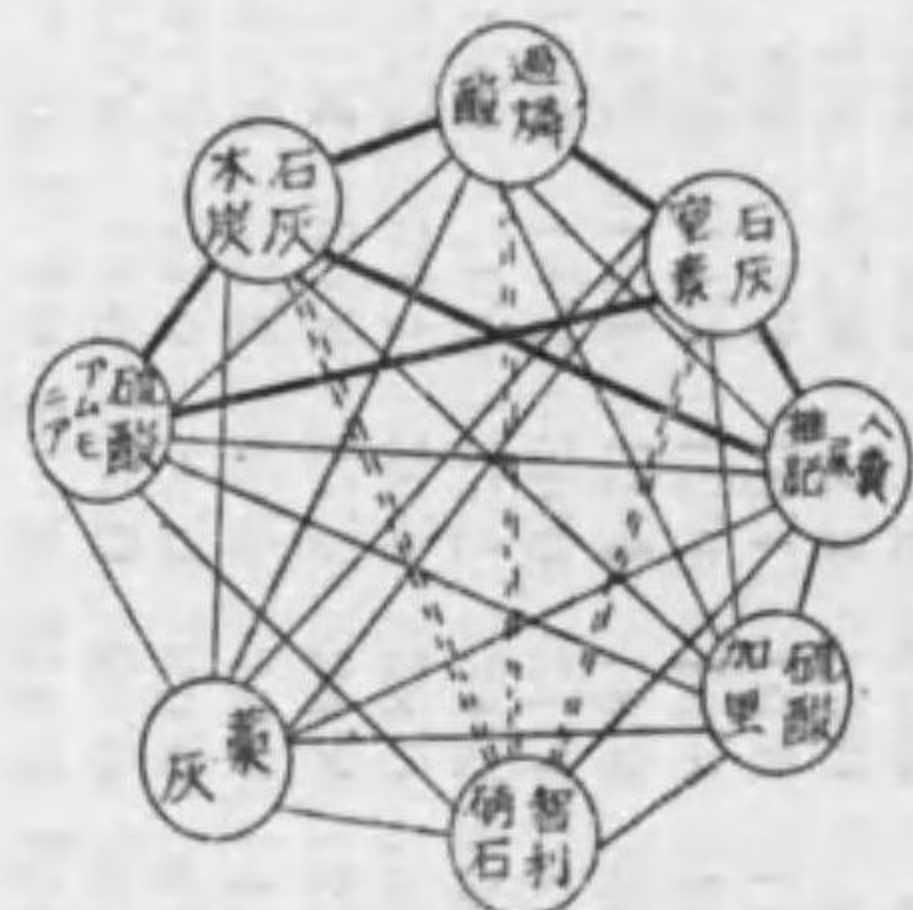
月 十		月 十一		月 十二	
下	中	上	下	中	上
採收準備	採收準備	採收準備	採收準備	採收準備	採收準備
袋除去	袋除去	袋除去	袋除去	袋除去	袋除去
○收穫、脱澁、貯藏、販賣等準備ヲナスコト	○收穫、脱澁、貯藏、販賣等準備ヲナスコト	○收穫、脱澁、貯藏、販賣等準備ヲナスコト	○收穫、脱澁、貯藏、販賣等準備ヲナスコト	○收穫、脱澁、貯藏、販賣等準備ヲナスコト	○收穫、脱澁、貯藏、販賣等準備ヲナスコト
○袋掛ヲナシタルモノハ除去シテ着色ヲ促ス	○袋掛ヲナシタルモノハ除去シテ着色ヲ促ス	○袋掛ヲナシタルモノハ除去シテ着色ヲ促ス	○袋掛ヲナシタルモノハ除去シテ着色ヲ促ス	○袋掛ヲナシタルモノハ除去シテ着色ヲ促ス	○袋掛ヲナシタルモノハ除去シテ着色ヲ促ス
○除キタル袋ハ集メテ焼却スルコト	○除キタル袋ハ集メテ焼却スルコト	○除キタル袋ハ集メテ焼却スルコト	○除キタル袋ハ集メテ焼却スルコト	○除キタル袋ハ集メテ焼却スルコト	○除キタル袋ハ集メテ焼却スルコト
○着色ノ早イモノカラ採收スル	○着色ノ早イモノカラ採收スル	○着色ノ早イモノカラ採收スル	○着色ノ早イモノカラ採收スル	○着色ノ早イモノカラ採收スル	○着色ノ早イモノカラ採收スル
○採果ハ缺ヲ以テ丁寧ニ行フ	○採果ハ缺ヲ以テ丁寧ニ行フ	○採果ハ缺ヲ以テ丁寧ニ行フ	○採果ハ缺ヲ以テ丁寧ニ行フ	○採果ハ缺ヲ以テ丁寧ニ行フ	○採果ハ缺ヲ以テ丁寧ニ行フ
○秋季植付ノモノハ下旬ヨリ來月上旬ニ互リテ行フ	○秋季植付ノモノハ下旬ヨリ來月上旬ニ互リテ行フ	○秋季植付ノモノハ下旬ヨリ來月上旬ニ互リテ行フ	○秋季植付ノモノハ下旬ヨリ來月上旬ニ互リテ行フ	○秋季植付ノモノハ下旬ヨリ來月上旬ニ互リテ行フ	○秋季植付ノモノハ下旬ヨリ來月上旬ニ互リテ行フ
○乾燥防止ノ必要ハ春季同様更ニ寒害防止ノタメ根元ニ敷藁ヲ充分ニス	○乾燥防止ノ必要ハ春季同様更ニ寒害防止ノタメ根元ニ敷藁ヲ充分ニス	○乾燥防止ノ必要ハ春季同様更ニ寒害防止ノタメ根元ニ敷藁ヲ充分ニス	○乾燥防止ノ必要ハ春季同様更ニ寒害防止ノタメ根元ニ敷藁ヲ充分ニス	○乾燥防止ノ必要ハ春季同様更ニ寒害防止ノタメ根元ニ敷藁ヲ充分ニス	○乾燥防止ノ必要ハ春季同様更ニ寒害防止ノタメ根元ニ敷藁ヲ充分ニス
○前月中ニ未了ノ作業ハ結末整理ス	○前月中ニ未了ノ作業ハ結末整理ス	○前月中ニ未了ノ作業ハ結末整理ス	○前月中ニ未了ノ作業ハ結末整理ス	○前月中ニ未了ノ作業ハ結末整理ス	○前月中ニ未了ノ作業ハ結末整理ス
○落葉枯枝等ヲ集メテ焼却ス	○落葉枯枝等ヲ集メテ焼却ス	○落葉枯枝等ヲ集メテ焼却ス	○落葉枯枝等ヲ集メテ焼却ス	○落葉枯枝等ヲ集メテ焼却ス	○落葉枯枝等ヲ集メテ焼却ス
○一切ノ準備ガ完了ンテカラ收穫ニカカリ狼狽セヌ様注意ヲ要ス	○一切ノ準備ガ完了ンテカラ收穫ニカカリ狼狽セヌ様注意ヲ要ス	○一切ノ準備ガ完了ンテカラ收穫ニカカリ狼狽セヌ様注意ヲ要ス	○一切ノ準備ガ完了ンテカラ收穫ニカカリ狼狽セヌ様注意ヲ要ス	○一切ノ準備ガ完了ンテカラ收穫ニカカリ狼狽セヌ様注意ヲ要ス	○一切ノ準備ガ完了ンテカラ收穫ニカカリ狼狽セヌ様注意ヲ要ス
○收穫ヲ急ガザル場合ハ中下旬迄袋ヲ除カザルモ可ナリ	○收穫ヲ急ガザル場合ハ中下旬迄袋ヲ除カザルモ可ナリ	○收穫ヲ急ガザル場合ハ中下旬迄袋ヲ除カザルモ可ナリ	○收穫ヲ急ガザル場合ハ中下旬迄袋ヲ除カザルモ可ナリ	○收穫ヲ急ガザル場合ハ中下旬迄袋ヲ除カザルモ可ナリ	○收穫ヲ急ガザル場合ハ中下旬迄袋ヲ除カザルモ可ナリ
○着色充分デ白粉ヲ裝フモノヲ採收ス、時期早ケレバ品質不良遅ルレバ貯藏輸送ニ耐ヘズ	○着色充分デ白粉ヲ裝フモノヲ採收ス、時期早ケレバ品質不良遅ルレバ貯藏輸送ニ耐ヘズ	○着色充分デ白粉ヲ裝フモノヲ採收ス、時期早ケレバ品質不良遅ルレバ貯藏輸送ニ耐ヘズ	○着色充分デ白粉ヲ裝フモノヲ採收ス、時期早ケレバ品質不良遅ルレバ貯藏輸送ニ耐ヘズ	○着色充分デ白粉ヲ裝フモノヲ採收ス、時期早ケレバ品質不良遅ルレバ貯藏輸送ニ耐ヘズ	○着色充分デ白粉ヲ裝フモノヲ採收ス、時期早ケレバ品質不良遅ルレバ貯藏輸送ニ耐ヘズ
○遠地出荷ノモノハ稍早目ニ採果スル	○遠地出荷ノモノハ稍早目ニ採果スル	○遠地出荷ノモノハ稍早目ニ採果スル	○遠地出荷ノモノハ稍早目ニ採果スル	○遠地出荷ノモノハ稍早目ニ採果スル	○遠地出荷ノモノハ稍早目ニ採果スル
○枝付キノママ折リ採ルコトハ採收シタル果ヲ傷付ケ易ク樹ノ爲メモ悪イ	○枝付キノママ折リ採ルコトハ採收シタル果ヲ傷付ケ易ク樹ノ爲メモ悪イ	○枝付キノママ折リ採ルコトハ採收シタル果ヲ傷付ケ易ク樹ノ爲メモ悪イ	○枝付キノママ折リ採ルコトハ採收シタル果ヲ傷付ケ易ク樹ノ爲メモ悪イ	○枝付キノママ折リ採ルコトハ採收シタル果ヲ傷付ケ易ク樹ノ爲メモ悪イ	○枝付キノママ折リ採ルコトハ採收シタル果ヲ傷付ケ易ク樹ノ爲メモ悪イ
○一年間ノ努力ノ跡ヲ省ルコトガ必要デアル成功力失敗力、更ニ改良ニ向ツテ明年ノ計劃ヲ熟考スル	○一年間ノ努力ノ跡ヲ省ルコトガ必要デアル成功力失敗力、更ニ改良ニ向ツテ明年ノ計劃ヲ熟考スル	○一年間ノ努力ノ跡ヲ省ルコトガ必要デアル成功力失敗力、更ニ改良ニ向ツテ明年ノ計劃ヲ熟考スル	○一年間ノ努力ノ跡ヲ省ルコトガ必要デアル成功力失敗力、更ニ改良ニ向ツテ明年ノ計劃ヲ熟考スル	○一年間ノ努力ノ跡ヲ省ルコトガ必要デアル成功力失敗力、更ニ改良ニ向ツテ明年ノ計劃ヲ熟考スル	○一年間ノ努力ノ跡ヲ省ルコトガ必要デアル成功力失敗力、更ニ改良ニ向ツテ明年ノ計劃ヲ熟考スル

肥料一升重量

大豆粕(二枚)	大豆粕粉	血粉	蠶蛹粉	粗骨粉	生骨粉	蒸製骨粉	干魚碎粉	鯨魚粕粉	鯧魚粕粉	腐熟堆肥	鶏糞	人糞	人糞
七、三〇〇	二、六〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、六〇〇	三、六〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
石炭灰	木炭灰	硫酸加里	トーマス燐肥	重過燐酸	過燐酸	智利燐石	硫酸アンモニヤ	小麦糠	米糠	燒酎粕(乾)	綿實粉	茶種粉	茶種粉
二、五〇〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	六、四〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇

肥料ノ一升重量ハ決シテ一定セス其ノ大体ヲ示セリ

肥料配合指示圖



一、線ハ同ニ相結合セ
ル肥料ハ同時ニ混合
スベカラズ必ズ數日
ヲ隔テ各別ニ施スベ
シ

二、線ハ相結合セ
ル肥料ハ不可ナリ、
テ置クハ直チニ施用
スルハ差支ナシ

三、ニテ相結合セ
ル肥料ハ共ニ混合シ
テハ配シ置クモ差支
ナシ

全	全	五、 佐賀果樹 產調肥料	五、 穀	蠟	藥	煙草中骨	木	ト ロ ナ 鹽 化 加 里	硫 酸 加 里
三號	二號	一號	灰	灰	灰	灰	灰	里	里
全	全	全	中	過	全	全	中	全	最速
五、 一〇〇	六、 二〇〇	六、 〇〇〇							
六、 四〇〇	六、 六〇〇	七、 〇〇〇			一〇、 〇〇〇	二、 一〇〇	二、 五〇〇	一、 九〇〇	
六、 二〇〇	六、 一〇〇	五、 五〇〇			一、 一五〇	二、 四〇〇	四、 五〇〇	三、 一〇〇	六、 六〇〇
六、 二〇〇	六、 一〇〇	五、 五〇〇			一、 一五〇	二、 四〇〇	四、 五〇〇	三、 一〇〇	六、 六〇〇

石灰硫黃合劑稀釋表

原液濃度	稀釋濃度	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
0.1	51.0	61.0	67.0	84.0	95.0	101.0	118.0	130.0	142.0	154.0	166.0	179.0	191.0	204.0	217.0	231.0	
0.2	24.8	30.2	35.7	41.2	46.9	53.0	58.0	64.0	70.0	76.0	82.0	89.0	95.0	102.0	108.0	114.0	
0.3	16.2	19.8	23.4	27.2	31.0	31.7	38.6	42.5	46.5	52.0	56.0	60.0	64.0	68.0	73.0	77.0	
0.4	11.8	14.6	17.3	20.1	22.9	25.8	28.7	31.6	35.6	37.6	40.7	43.9	47.0	50.0	54.0	57.0	
0.5	9.3	11.4	13.6	15.2	18.1	20.4	22.7	24.7	27.4	29.8	32.5	34.8	37.3	39.8	42.5	45.1	
0.6	7.6	10.4	11.2	13.1	14.9	16.8	18.8	20.7	22.7	24.7	26.8	28.9	30.9	33.1	35.3	37.5	
0.7	6.3	7.9	9.4	11.0	12.6	14.2	15.9	17.6	19.3	21.0	22.7	24.5	26.3	28.2	30.0	31.9	
0.8	5.4	6.8	8.7	9.5	11.0	12.4	13.8	15.3	16.7	18.3	20.0	21.4	22.9	24.5	26.2	27.8	
0.9	4.7	5.9	7.7	8.3	9.4	10.8	12.1	13.4	14.7	16.1	17.4	18.8	20.2	21.6	23.1	24.6	
1.0	4.1	5.2	6.3	7.4	8.5	9.7	11.8	12.0	13.2	14.4	15.6	16.8	18.1	19.9	20.7	22.0	
1.5	2.42	3.14	3.86	4.61	5.35	6.7	6.9	7.7	8.5	9.3	10.1	10.9	11.7	12.6	13.5	14.4	
2.0	1.56	2.10	2.64	3.19	3.76	4.32	4.89	5.5	6.1	6.70	7.3	7.90	8.5	9.2	9.8	10.5	
2.5	1.03	1.46	1.89	2.33	2.78	3.23	3.69	4.15	4.62	5.09	5.6	6.10	6.6	7.1	7.6	8.1	
3.0	0.69	1.04	1.40	1.76	2.13	2.51	2.90	3.27	3.66	4.0	4.46	4.87	5.30	5.70	6.1	6.60	
3.5	0.44	0.75	1.00	1.36	1.68	1.96	2.32	2.65	2.93	3.32	3.66	4.02	4.37	4.73	5.1	5.50	
4.0	0.26	0.52	0.79	1.03	1.34	1.62	1.89	2.18	2.47	2.77	3.07	3.38	3.68	4.0	4.32	4.64	
4.5	0.11	0.35	0.58	0.82	1.07	1.31	1.56	1.82	2.07	2.33	2.60	2.87	3.14	3.42	3.71	3.99	
5.0	—	0.21	0.42	0.64	0.86	1.08	1.30	1.53	1.76	1.99	2.24	2.48	2.72	2.98	3.23	3.49	

(1)

原液濃度	稀釋濃度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
0.1	244.0	258.0	272.0	286.0	300.0	315.0	330.0	345.0	360.0	377.0	393.0	409.0	426.0	442.0	459.0	
0.2	122.0	128.0	131.0	143.0	150.0	157.0	165.0	172.0	179.0	188.0	191.0	204.0	212.0	221.0	229.0	
0.3	82.0	86.0	91.0	96.0	101.0	106.0	110.0	116.0	120.0	126.0	131.0	137.0	142.7	148.0	154.0	
0.4	60.0	64.0	67.0	71.0	74.0	78.0	82.0	86.0	89.0	93.0	97.0	101.0	106.0	110.0	114.0	
0.5	47.8	51.0	53.0	56.0	59.0	62.0	65.0	68.0	71.0	74.0	77.0	81.0	84.0	87.0	91.0	
0.6	39.8	42.0	43.4	46.7	49.1	52.0	54.0	57.0	59.0	62.0	64.0	69.0	70.0	73.0	76.0	
0.7	33.8	35.8	37.8	39.8	42.0	44.0	46.0	48.4	50.0	53.0	55.0	57.0	60.0	62.0	65.0	
0.8	29.5	31.2	32.9	34.8	36.5	38.4	40.2	42.1	44.1	46.0	48.0	50.0	52.0	54.0	56.0	
0.9	26.1	27.6	29.1	30.7	32.3	33.9	35.6	37.2	38.9	40.7	42.5	44.2	46.1	48.6	49.8	
1.0	23.4	24.7	26.1	27.5	29.0	30.4	31.9	33.3	34.8	36.5	38.1	39.7	41.4	43.1	44.8	
1.5	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.9	20.6	21.9	23.0	24.0	25.1	26.2	27.3	28.4	29.5	
2.0	11.2	11.8	12.6	13.3	13.9	14.7	15.4	16.19	16.96	17.7	18.5	19.3	20.2	21.0	21.9	
2.5	8.70	9.2	9.8	10.3	10.9	11.5	12.1	12.7	13.3	13.9	14.5	15.2	15.8	16.5	17.2	
3.0	7.0	7.5	7.9	8.4	8.9	9.3	9.8	10.3	10.8	11.3	11.9	12.4	12.9	13.0	14.1	
3.5	5.80	6.2	6.6	7.0	7.4	7.8	8.3	8.7	9.1	9.5	9.9	10.5	10.9	11.4	11.9	
4.0	4.97	5.30	5.7	6.0	6.4	6.7	7.1	7.4	7.8	8.2	8.6	9.0	9.4	9.8	10.2	
4.5	4.28	4.58	4.88	5.2	5.5	5.8	6.1	6.5	6.8	7.1	7.5	7.8	8.2	8.6	8.9	
5.0	3.75	4.03	4.29	4.57	4.84	5.1	5.42	5.7	6.0	6.3	6.6	7.0	7.3	7.6	7.9	

(2)

硫酸ニコチン稀釋表

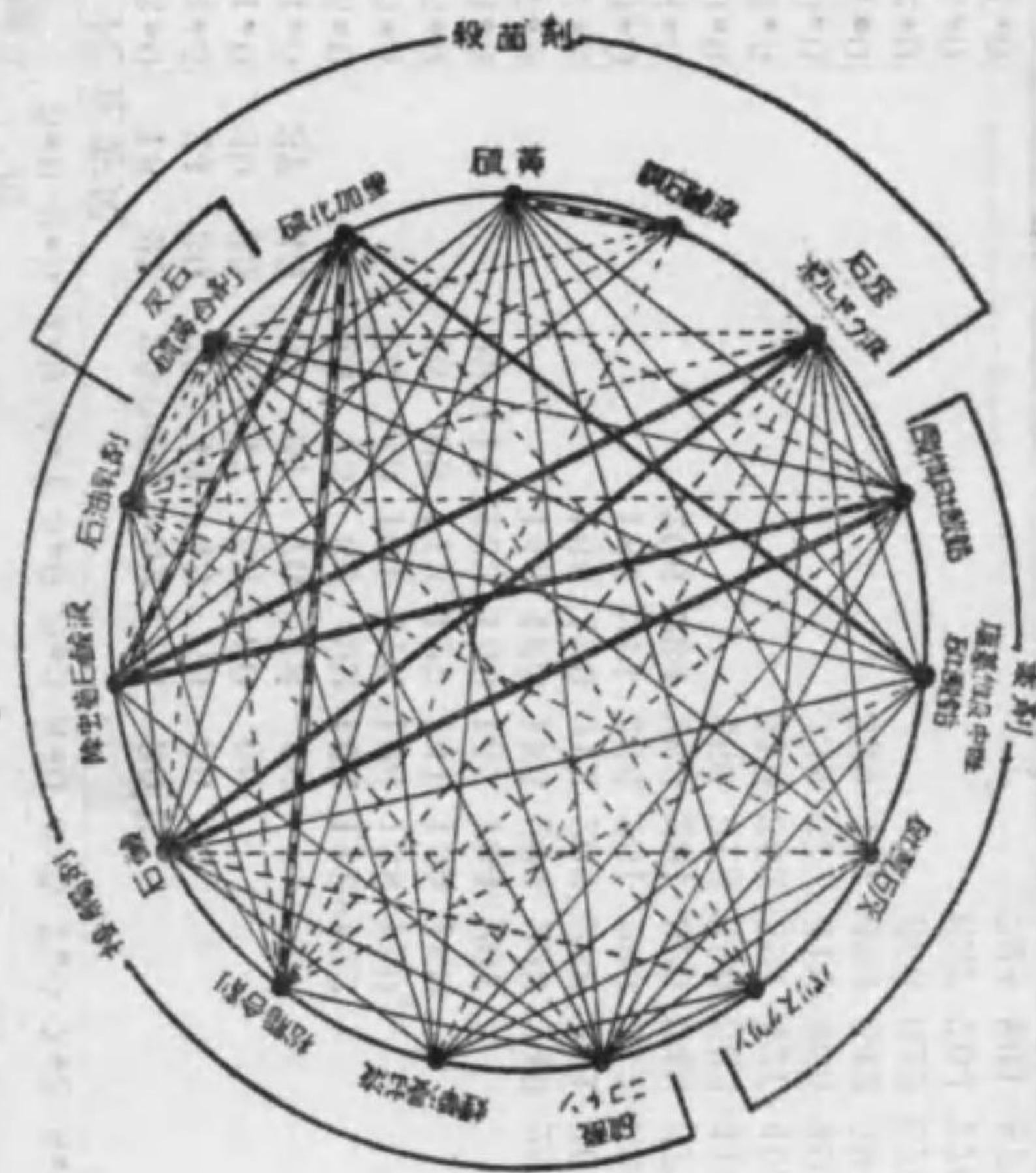
所要量 倍數	硫酸ニコチン1封度ニテ得ラルル稀釋液量					
	1升	5升	1斗	4斗	1石	升
500	0.96	4.81	9.62	38.5	96.2	12.5
600	0.80	4.01	8.02	32.1	80.2	15.0
700	0.69	3.44	6.87	27.5	68.7	17.5
800	0.60	3.01	6.01	24.0	60.1	20.0
900	0.53	2.67	5.34	21.4	53.4	22.5
1000	0.48	2.41	4.81	19.2	48.1	25.0
1100	0.44	2.19	4.37	17.5	43.7	27.5
1200	0.40	2.00	4.00	16.0	40.0	30.0
1300	0.37	1.85	3.70	14.8	37.0	32.5
1400	0.34	1.72	3.44	13.8	34.4	35.0
1500	0.32	1.61	3.21	12.8	32.1	37.5
1600	0.30	1.51	3.01	12.0	30.1	40.0
1700	0.28	1.42	2.83	11.3	28.3	42.5
1800	0.27	1.34	2.67	10.7	26.7	45.0
1900	0.25	1.27	2.53	10.1	25.3	47.5
2000	0.24	1.21	2.41	9.6	24.1	50.0

立木樹テント内容積早見表

高#	直径		内容積																			
	尺	方尺	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	
3.0	18	21	25	28	32	35	39															
3.5	24	30	35	40	45	50	55															
4.0	29	35	41	47	53	60	66															
4.5	37	45	53	61	70	78	86															
5.0			63	73	82	92	102	112	122													
5.5			76	89	101	113	126	138	150													
6.0			85	99	113	127	141	155	169													
6.5			99	116	133	150	167	184	202													
7.0			146	165	185	204	223	249	262													
7.5			168	190	213	236	258	281	303													
8.0			186	211	236	261	286	311	336	362												
8.5			206	234	263	291	320	348	377	405	434											
9.0			286	318	350	382	413	445	477	509	540											
9.5			319	355	391	427	463	500	536	572	609											
10.0			338	377	416	455	495	534	573	612	652	730	840									
11.0			399	447	494	542	589	637	684	732	779	844	909									
12.0					566	622	679	735	792	848	905	1018	1131	1244	1357							
13.0					637	704	770	836	903	969	1035	1168	1301	1434	1566							
14.0					724	801	877	944	1031	1108	1185	1339	1493	1647	1801							

備考 テント又ハ籠ノ平均直径及高サヲ測定ス即平均ノ直径方5尺高サ方6尺ノ場合ハ13立方尺トナル

病害虫防除剂混用適否表



混用ヲ禁ズベキモノ
 混用スレバ時トシテ危険ナルモノ
 混用シテモ差支ナキモノ
 混用シテモ安全ナルモノ

昭和十一年十月一日印刷
昭和十一年十月八日發行

發行所 佐賀市松原町七七 佐賀縣果樹園藝組合聯合會
 著作兼發行者 佐賀市松原町七七 千綿萬三
 印刷者 佐賀市松原町二六 原口清
 印刷所 佐賀市松原町二六 原口弘文堂印刷所

終

9
20